

史跡 齋宮跡

平成 11 年度発掘調査概報

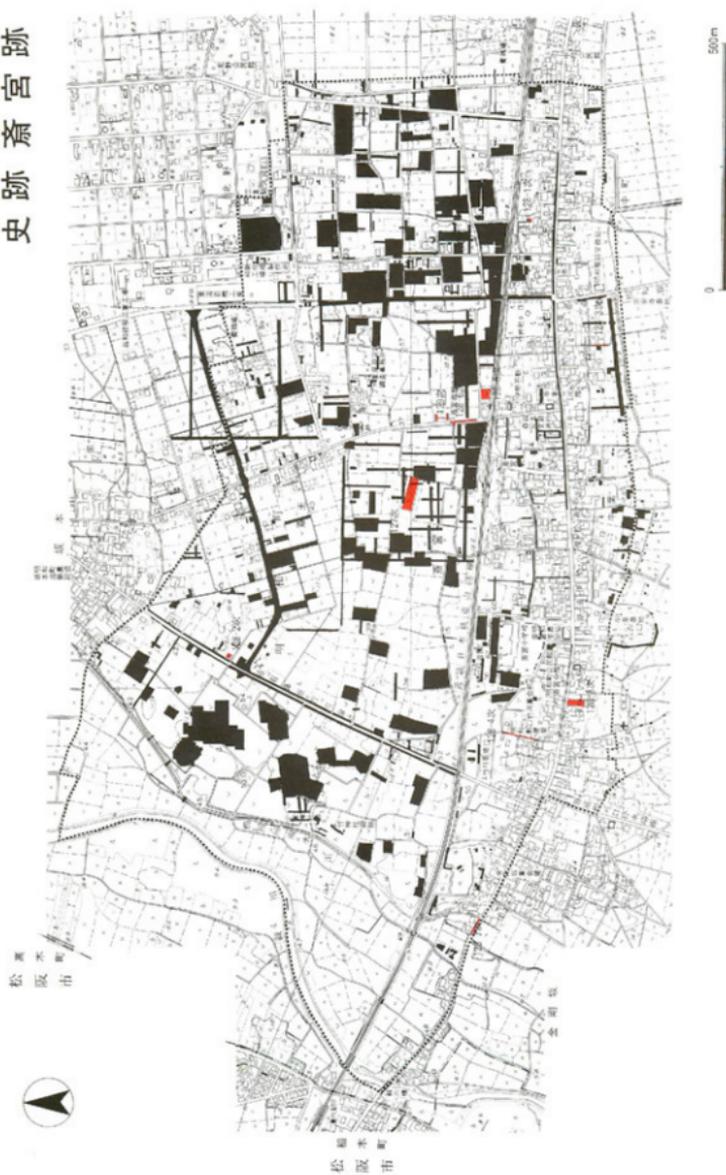
2001

齋宮歴史博物館



第127次調査航空写真

史跡 齋宮跡



第1図 平成11年度発掘調査位置図 (1:10,000)

はじめに

斎宮跡は、律令制下において伊勢神宮奉斎のため、天皇の代毎に派遣された斎王の宮殿及び斎宮寮の役所の跡であります。斎宮跡の保護顕彰は江戸時代に遡りますが、昭和45年の団地造成計画に端を発した発掘調査により、宮殿の解明と保存対策が問題となりました。地元との協議を経て、昭和54年3月に国の史跡の指定を受け、発掘調査をはじめ、土地の公有化、整備事業等の保護活用事業を国の補助金等を受け、三重県及び明和町で積極的に取り組んでいます。

発掘調査は、既に四半世紀を過ぎ、史跡の東部において藤原宮、平城宮、長岡宮、平安京の条坊制に通じる方格地割が確認されています。近年は、その中枢部の調査を精力的に実施しており、平成9年度の第119次調査及び平成10年度の第124次調査により、鍛冶山地区では、二重の掘立柱塼に囲まれ、大型の井戸を伴う大型掘立柱建物が規則的に配置されたことも明かになり、奈良時代後期から平安時代前期における斎王の御殿があった「内院」と判断することが可能になってきております。

史跡中央部の解明とともに、方格地割の北西隅部の状況も次第に明らかにされてきており、方格地割北西隅部の区画は4区画が大きく一つの区画として設定されており、しかもその時期は、考古学的な所見にもとづく限り、平安時代後期を遡り得ません。このことは、方格地割の変遷についても、再検討を求める結果となり、今後の大きな課題の一つとなっています。

平成11年度は、この区画のほぼ中央部で、この区画を貫通する奈良時代の官道、及び官道停廃後の区画の性格を把握することを目的として、第127次調査を行いました。

調査の結果、奈良時代後期の側溝を確認するとともに、平安時代前期の側溝も確認され、官道として使われた時期が、中枢部における廃絶後も存続することも提起されました。

一方、整備・活用の面では、平成8年度から着手しました「遺構の活用・演出的整備ゾーン」計画地区において、文化庁の地方拠点史跡等総合整備事業に採択され、「斎宮跡歴史ロマン再生事業」として、事業を推進しております。

平成11年10月には、斎宮跡体験学習施設「いつきのみや歴史体験館」が竣工し、平安文化を基軸に据えた体験学習等に鋭意取り組んでおります。

この度刊行させていただく本概報は、平成11年度に実施いたしました斎宮跡の計画調査及び整備事業に伴う事前調査の成果の概要をまとめたものであり、これまでの膨大な調査成果の蓄積と相まって斎宮跡の実態解明にとって貴重な資料となるものと信じております。

斎宮跡の保存と調査研究・整備にあたりましては、文化庁をはじめ斎宮跡調査研究指導委員の先生方の御指導や地元明和町をはじめとする関係機関・各位の御協力の賜物と感謝申し上げます。

平成13年3月

斎宮歴史博物館

館長 藤澤英三

例 言

- 1 本書は、三重県が平成11年度に国庫補助金の交付を受けて実施した「史跡斎宮跡発掘調査」及び「地方拠点史跡等総合整備事業」に伴う事前調査の概要をまとめたものである。
- 2 明和町が、国庫補助金及び三重県補助金の交付を受け調査主体となって実施した史跡現状変更等に伴う緊急発掘調査の報告書は、別途明和町教育委員会が刊行している。
- 3 遺構の実測にあたっては、国土調査法による第Ⅵ座標系を基準とし、方位は座標北を用いた。
- 4 遺構の時期区分は、『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』（斎宮歴史博物館 2001）による。
- 5 遺構表示記号は次のとおりである。
SB；建物 SA；掘立柱塀・欄列 SE；井戸 SK；土坑 SD；溝 SF；道路
SX；その他
- 6 方格地割における各区画の名称は第11図に示した。
- 7 特に標示がない限り遺物実測図は実物の4分の1、遺物写真は約3分の1である。
- 8 用語は、「墓に関わる穴」には廣、「その他の穴」には坑を用いた。また、材質の差による漢字の偏に必ずしも従うことなく、「杯」・「碗」等を用いた。
- 9 斎宮跡の調査全般については、「斎宮跡調査研究指導委員」の諸先生方の指導を得た。

元奈良国立文化財研究所長	鈴木 嘉 吉
京都橘女子大学教授	狩 野 久
三重大学名誉教授	八 賀 晋
岐阜聖徳学園大学教授	所 京 子
名古屋短期大学教授	上 村 喜久子
奈良国立文化財研究所長	町 田 章
千葉大学教授	北 原 理 雄
聖心女子大学助教授	佐々木 恵 介
- 10 現地での発掘調査及び本概報の編集・執筆は斎宮歴史博物館 調査研究グループ（旧調査研究担当）の駒田利治、泉 雄二、上村安生、大川勝弘、西村美幸があたり、八木光代、山口香代がこれを補助した。遺物整理には島村紀久子、西村秋子、杉原泰子が担当したほか、大西瞳（花園大学生）の参加を得た。第127次調査の遺物実測は、泉、大川、西村、山口があたり、遺物トレースを山口、遺物観察表を八木が担当した。

目 次

I 調査の経過と概要	1
II 第127次調査	3
III 第129次調査	19
発掘調査報告抄録	30

表・挿図目次

[表] 1 平成11年度発掘調査一覧表	2
2 第127次調査時期別遺構分類表	4
3 遺物観察表	21
4 斎宮跡発掘調査回数一覧表	24
[図] 1 平成11年度発掘調査位置図 (1:10,000)	i
2 第127次調査 調査区位置図 (1:2,000)	3
3 " 遺構実測図 (1:200)	5
4 " 遺物実測図 (1)	12
5 " 遺物実測図 (2)	13
6 " 遺物実測図 (3)	15
7 斎宮跡史跡内の伊勢道調査地点 (1:10,000)	18
8 第129次調査 調査区位置図 (1:2,000)	19
9 " 遺構実測図 (1:200)	20
10 斎宮跡地区表示	28
11 斎宮跡方格地割区画名称	29

写 真 図 版

巻首図版 第127次調査 航空写真

PL 1 上: 第127次調査区全景 (上空から)	下: 調査区全景 (西から)
PL 2 上: S D5254,8166,5256,5260 (東から)	下: S D8128,8129,8130,8132 (西から)
PL 3 上: S B7715	下: S K8134 土器出土状況
PL 4 上: 第129次調査調査区全景 (南から)	下: 北調査区全景 (東から)
PL 5 第127次調査遺物写真 (1)	
PL 6 第127次調査遺物写真 (2)	

I 調査の経過と概要

経過

古里地区での宅地開発計画に伴い昭和45年に始まる斎宮跡の発掘調査は、文化庁の補助事業として、昭和48年から開始した範囲確認調査を経て、昭和54年3月27日に国の史跡に指定され、指定以来史跡解明の計画調査を継続して実施している。

これまでの発掘調査成果の蓄積から平安時代初期を中心に展開を想定している方格地割において、方形区画内をめぐる掘立柱塀や大型掘立柱建物の規則的な配置、祭祀を想起させる土坑の存在等から、当該期斎宮寮の中核部の可能性が強い西加座・牛葉・鍛冶山地区における構造解明に重点をおいて調査を進めている。

また、史跡指定以降、管理団体である明和町が文化庁及び県の補助を得て実施している史跡の買い上げの進捗と相まって、公有地の管理と史跡の活用が課題となり、平成5年度に『史跡斎宮跡整備基本構想検討調査報告書』刊行、平成8年3月に『史跡斎宮跡整備基本構想』策定を行うとともに、平成7年度には、文化庁等の指導を得ながら『史跡斎宮跡「遺構の活用・演出的整備ゾーン」整備基本計画』を公表した。

整備計画地は斎宮駅北側の方格地割北西隅部に想定される地区であり、公有化が最も進捗した地区であるとともに、斎宮跡及び斎宮歴史博物館への窓口の一つであり、また、近代の瓦粘土採掘によって遺構の保存状況が必ずしも良くない地区であることにより『史跡斎宮跡 整備基本構想』の「遺構の活用・演出的整備ゾーン」として、137.1haの広大な広がりをもつ斎宮跡の理解を体験的に深めるため1/10模型を核とした体験学習を実施できる整備ゾーンとして位置づけた。

第127次調査

この上園・宮ノ前地区でのこれまでの調査を補完し、施設の建設予定地となる地区を第127次調査として実施した。調査の結果、想定していた奈良時代の溝の北側に、周辺地の調査結果から推定して道路状遺構として判断できる遺構を確認した。

また、平安時代前期においても、道路状遺構を推定させる溝を確認しており、平安時代後期でも幅約5mの両側側溝を有する道路状遺構を確認している。

さらに、出土遺物から時期は特定できなかったが、幅9mの間隔で2条の溝が確認され、これも道路状遺構と考えられる。

従って、この区画内においては、奈良時代から平安後期まで、官道として用いられた伊勢道が敷設されていたこととなり、方格地割との関係を再検討を要する必要がある。

現地公開

調査期間中の6月6日には、第17回「斎王まつり」が開催され、協賛事業として発掘調査中の現地を一般に公開し、県内外303名の参加を得た。

第1回調査研究指導委員会議

調査が終了した7月22日には、斎宮跡調査研究指導委員会議を開催し、第127次の調査内容及び斎宮跡歴史ロマン再生事業で実施している体験学習施設建設等にかかる指導をうけるとともに、今後の整備事業について助言を得た。

現地説明会

斎宮跡調査研究指導委員の先生方の指導を得、調査成果が整理できた10月3日には、現地説明会を開催し、遺構の詳細と史跡の重要性を164名の参加者の方に理解いただいた。

第129次調査

第127次調査区のある区画やこの東に位置する御館区画の南側は、わずかに高くなっ

ており、第93次、第95次、第99次、第118次調査等では、奈良時代前期～平安時代後期までの建物遺構が確認されている。第129次調査は、御館区画の南西隅部の一段高い部分でトレンチ調査を行った。今回の調査では、大半が近代の瓦粘土採掘のため遺構面が攪乱されており、遺構は確認できなかった。しかし、遺物は平安時代初期から後期までのものが少量出土し、当該区画が平安時代には機能していたことを示している。

第2回調査研究 指導委員会議 斎宮跡歴史ロマン再生事業の中核施設である体験学習施設「いつきのみや歴史体験館」は、斎宮歴史博物館のリニューアルオープンとともに、10月2日に開館した。開館式典への出席も兼ねて、10月1日及び2日の両日にわたって開催した。

委員会議では、1/10建物模型の材質の決定、調査で確認された建物と推定建物の区別の有無並びにその方法について指導いただいた。

緊急発掘調査 整備事業を進めながら、史跡の現状変更に伴う緊急発掘調査を明和町教育委員会斎宮跡課と調査日程を調整しながらすすめた。

従来、側溝の改修に対しては、周辺遺構と現状変更行為を検討して、工事立会いとして取扱ってきた事例もあったが、今年度から溝改修に伴う現状変更行為については、すべて事前の発掘調査を実施することとした。

また、個人等の浄化槽に伴う現状変更については、事前の発掘調査を行い、その結果を調査報告書に掲載することとした。

第128-1次調査は、近鉄線以南で調査例が少ない地区での貴重な調査であり、斎宮跡内院地区内における南北方向の外郭掘立柱塀のうち、後出する掘立柱塀の延長部分の32間から34間の2間を確認し、更に南に延びることが判明した。また、先行する掘立柱塀は、今回の調査区でも認められず、近鉄線以北の第119次調査区内で途切れる間仕切りのものと考えられる。

第128-5次調査も、方格地割の区画施設想定地区での調査であり、奈良時代の幅13.3mの区画道路と南北両側溝を想定どおりに確認し、更に平安時代の幅約8mの道路と南北両側溝を確認した。

その他、史跡現状変更に伴い管理団体である地元明和町教育委員会が調査主体となり、斎宮歴史博物館が担当している事前の緊急発掘調査は、本年度は8件実施し、工事立会い調査を29件実施した。

(駒田 利治)

調査次数	地区名	面積	調査期間	地籍地番	所有者	備考	区分
127	6ADK-HI	1,330	H11.5.10～H11.10.26	斎宮字上園311	個人	計画調査	1
129	6AEU	166	H11.8.2～H11.8.20	斎宮字御館2969-1地	明和町	計画調査	1
調査面積	合計	1,496					
調査次数	地区名	面積	調査期間	地籍地番	所有者	備考	区分
128-1	6ADP	32	H11.6.8～H11.6.18	斎宮字鍛冶山2737-1	個人	農業用倉庫新築	3
128-2	6ACA-W	144	H12.1.17～H12.1.21	斎宮字古藪里3270-4	個人	個人住宅の新築	3
128-3	6AEW-ACM	41	H12.1.18～H12.1.1	斎宮字鈴池地内	明和町	側溝の新築	3
128-4	6ACK	80	H12.2.1～H12.2.24	竹川字東裏地内	明和町	道路改修工事	3
128-5	6AEP	452	H12.1.24～H12.2.9	斎宮字御館2975-1地	明和町	資材置場の整地	3
128-6	6ADN	27	H11.8.2～H11.8.3	斎宮字内山地内	明和町	水道管理設	1
128-7	6AAQ	20	H12.3.9	竹川字花園地内	明和町	即設側溝の改修	3
128-8	6ACA	20	H11.10.14	竹川字南裏250	個人	個人住宅の増築	3
調査面積	合計	816					

第1表 平成11年度発掘調査一覧表

Ⅱ 第127次調査

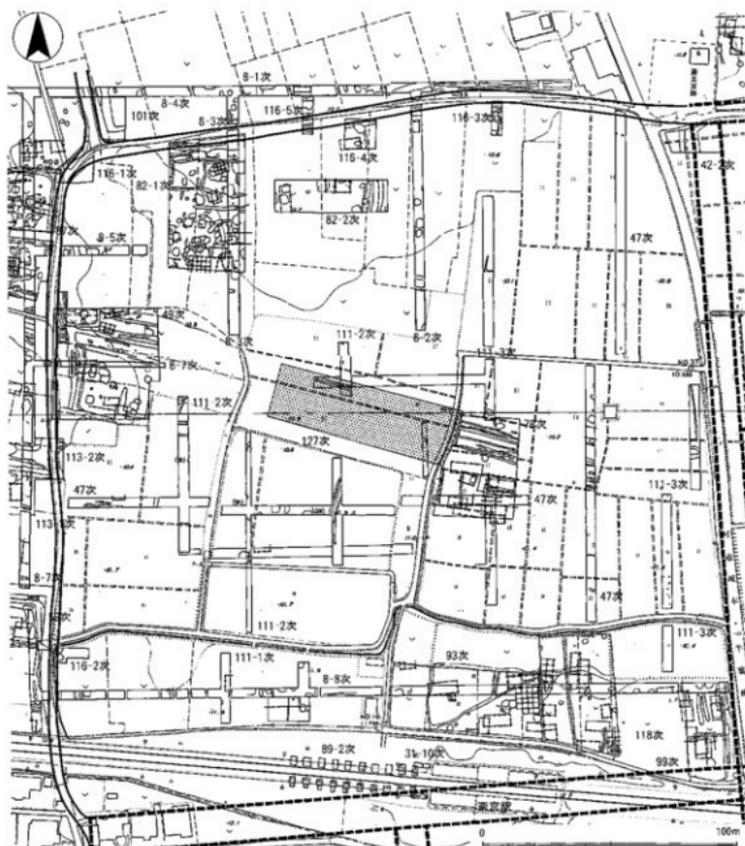
(6 ADK-H I 上園地区)

1 はじめに

平成11年度の第1回目の計画調査は、平成9年度から開始された地方拠点史跡等総合整備事業地域内において、芝生広場の南側で実施した。

調査の目的

斎宮跡では、律令国家体制の変革期にあたる光仁・桓武朝における長岡京・平安京遷都と呼応して、史跡東部に方格地割の造営が行われた。この方格地割は、一辺約120mを基準とした方形区画で構成され、東西7列、南北4列が確認されている。方格地割の各区画は、両側の側溝と道路で区画され、地割の基準軸は北から西へ約4°振って



第2図 第127次調査 調査区位置図 (1 : 2,000)

いる。

今回の整備対象地区である上園・宮ノ前地区は、方格地割の北西隅部に位置し、この地区では、4区画が想定されたが、平成5年度の第111次調査、平成8年度の第115次調査によって、この地区では、一辺約120mを基準とする方形区画に分割する区画道路および両側溝が確認されておらず、この部分は4区画分の広さを持った区画であることが判明している。

また、当該地区では、昭和58年度の第49次調査、昭和63年度の第78次調査等で、史跡西部から東部の方格地割内まで直線に延びる古代の官道である「伊勢道」が敷設されていたことが確認され、方格地割東部では方格地製造営時に官道が付け加えられたことも明らかになっている。しかし、当該地区では、方格地割の区画施設が平安時代後期になって造られていることもあり、また、平成元年度の第82次調査や区画南で地形的に一段高い内山地区における平成3年度の第93次調査、平成4年度の第95次調査、平成5年度の第99次調査、平成9年度の第118次調査で奈良時代前期以降の掘立柱建物も確認されており、方格地割の造営時における当該地区の位置付けについても課題が残されている。

今回の第127次調査は、こうした課題を踏まえ、この区画内における官道「伊勢道」の確認と、その機能の存続時期を解明することを目的として、現況水田地区に調査区を設定して行った。

調査期間

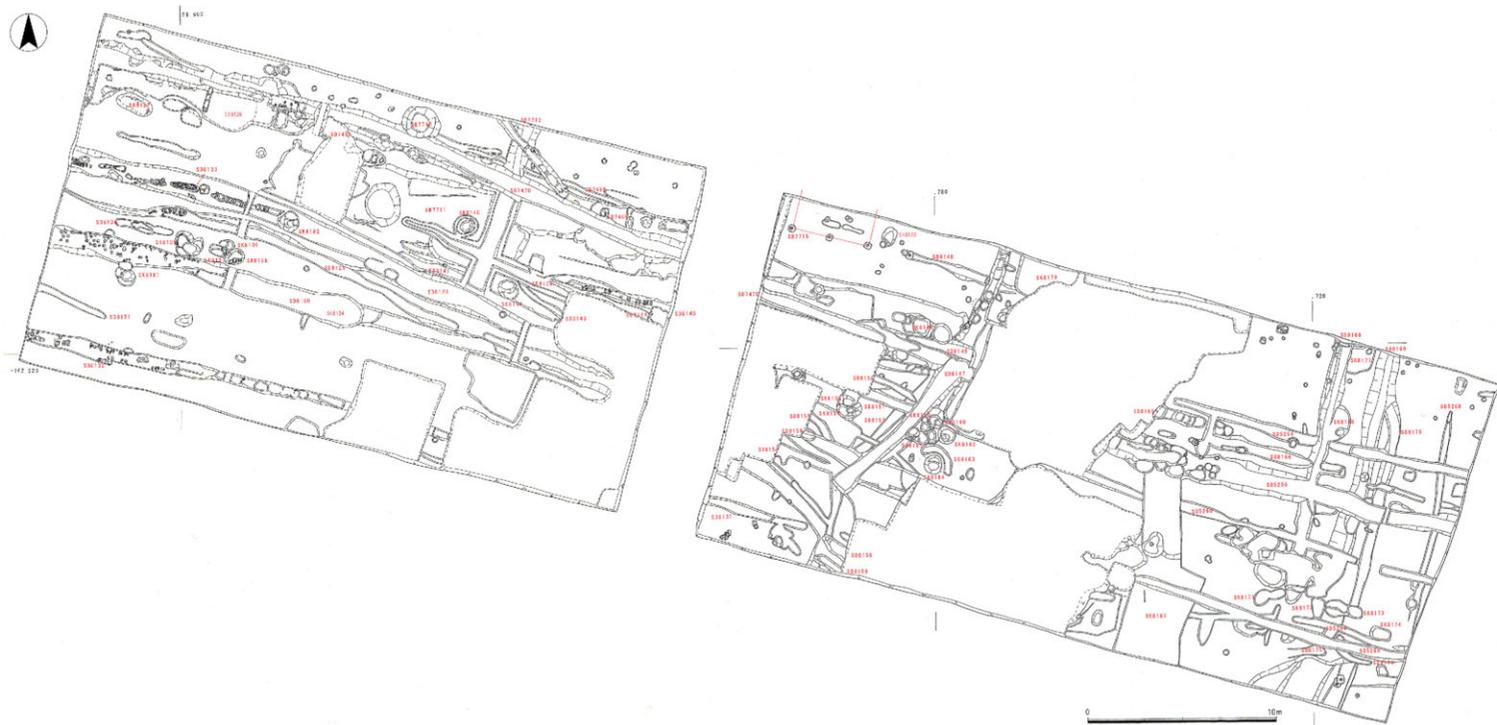
調査は、平成11年5月10日から同年10月26日まで実施した。調査期間中の6月6日(日)に「斎王まつり」に協賛して調査現場の一般公開を行い、303名の見学者があった。また、現地調査が終了した10月3日(日)には、調査の結果を広く県内外に発表する現地説明会を開催し、164名の参加者を得た。

現況

調査地区の現況は、標高10.1m～10.2mで、北西から東に向かって低くなっている。また、調査区周辺は、旧状図からも浅い谷状地形をなしており、降水時の雨水の流路となっている。

		遺 構 の 種 別			
		S B	S E	S K	S D
斎宮 第Ⅰ期	第3・4 段階			8134 8173	5266 8126 8129 8130 8149 8157 8165
斎宮 第Ⅱ期	第2・3 段階			8137 8160 8161 8163 8174 8179 8180	5254 5260 5264 8144 8150 8151 8156
	第4段階			8142	8141 8166
斎宮 第Ⅲ期	第1・2 段階	7715		7711 8127 8135 8136 8138 8140 8160	5256 7469 7470 7712 8128 8131 8139 8146 8152 8158 8159
鎌倉		7710		8162 8164 8181	7468 8168 8169 8170 8147
不明				8148 8153 8154 8172 8177 8178 8182	8132 8133 8143 8145 8155 8157 8167 8175 8176 8181

第2表 第127次調査 時期別遺構分類表



第3図 第127次調査 遺構実測図(1:200)

2 遺 構

調査の結果、奈良時代から近世までの掘立柱建物1棟、井戸1基、土坑27基、溝40条などを確認した。時期は、第2表に示したように平安時代の遺構が主体をしめる。

(1) 斎宮第1期第3・第4段階

この時期の遺構として、土坑2基、溝7条等を確認している。

SK8134 西調査区の中央部でSD8130と重複して確認した。調査当初は、土坑埋土が溝埋土と
きわめて酷似しており、溝の一部として調査を進めた。しかし、平面的には溝屑の形
状とは異なり、また遺構の底も溝より深くなることが明らかになった。かつ、土師器
杯A(1)1点、杯G(2~5)4点、皿A(6・7)2点、鍋A(8)1点、小型甕A(9~
14)6点、甕B(15~21)7点以上が折り重なるように出土していることから、SD8130
埋没直後に設けられた土坑と判断できた。また、これらの一括土器類は斎宮第1期第
3段階のものと判断される。

SK8173 東調査区北西部付近で検出した。長径約1.0m、短径約0.7m、深さ0.5mの楕円形
の土坑である。土師器蓋(22)が出土した。

SD5266 東調査区南部で検出した。幅0.5~0.7m、深さは約0.1m、溝の方向は約E16°Sであ
る。第78次調査で確認された溝の西側延長部分である。

SD8157 東調査区西側で検出した幅0.5m深さ0.1mの溝である。途中、近世以降の粘土採掘土
坑に切られ確証はできないがSD5266の続きと考えられる。

SD8130 西調査区南部で検出した。幅0.9~1.1m、深さは約0.2~0.3m、溝の方向は約E16°
Sである。途中でSK8134と重複しているが、新旧関係はSK8134よりも古い。また、
近代以降の粘土採掘土坑が途中にあり、また方位も若干変動している点からも確証は
できないが、SD5266・8157の続きである可能性もある。西端付近では、径20cmほどの
不正円形の小穴が多数見られる。

SD8165 東調査区中央付近で検出した。幅0.6m、深さは約0.2mだが、ビット状に深い部分
8149 がある。粘土採掘土坑を隔てて西側にはSD8149があり、位置関係から同一の溝と考えら
れる。総延長約16.5mを確認した。SD8149からは、土師器鍋B(25)等が出土した。

SD8129 西調査区の中央部で検出した。溝は緩く蛇行しており、西調査区東でSD8130と重複
する。検出できた幅・深さは、調査区西端では幅約0.2m、深さ約0.06mであるが、SD
8130と重複する付近では幅約1.1m、深さ約0.11mとやや深くなる。土師器杯A(23)
須恵器甕(24)等が出土した。

SD8126 西調査区の北西隅で検出した。斎宮第Ⅲ期のSD7470に壊される。湧水のため一部ト
レンチ状に調査した以外は調査を断念した。深さは約0.3mである。土師器鍋A(26)
等が出土した。

(2) 斎宮第Ⅱ期第2・第3段階

この時期の遺構には、土坑7基、溝7条等が確認されている。

SK8174 東調査区南東部で、SD5266の北で検出した東西幅約1.1m、南北幅約0.6m、深さ約
0.1mの土坑で、同時代のものと考えられるSD5264と重複している。遺物は、緑釉陶
器片が出土した。

SK8163 東調査区中央部付近で検出した。東西幅約2.1m、南北幅約0.6m、深さ約0.05mの半
円形で、鎌倉時代のSK8164に南側を壊されている。土師器杯A(29)等が出土した。

- SK8179 東調査区中央部北端で検出した。北側は調査区外に伸び、東端及び東南隅は近代以降の粘土採掘土坑に壊されている。検出した東西幅は約4m、南北幅は約3m、深さ約0.1mである。
- SK8137 西調査区中央西寄りで検出した。東西幅約0.95m、検出した南北幅約0.55m、深さ約0.3mである。斎宮第Ⅲ期の土坑 SK8136・8138に先行する。
- SK8160 斎宮第Ⅲ期の SD8147及び鎌倉時代の SK8162に壊される。遺構確認面では1基の土坑とみられたが、調査の結果では土坑底部は凹凸があり、SK8161・8180等の数基の土坑があまり時間差をおかず、掘られたと判断された。
- 8161・8180
- SD5260 東調査区中央付近で検出した。幅約0.5m、深さは約0.05～0.1m、溝方位は約E19°Sである。途中、粘土採掘土坑に壊されるが、規模や方向からSD8151に続くと考えられる。土師器杯A(28)等が出土した。
- SD8151 SD5260と粘土採掘を隔てた西側で検出し、SD5260の延長と考えられる。土師器杯A(32)等が出土している。
- SD8150 SD8151の約0.8m北に位置する。これより東では、この溝の続きは確認されていない。
- SD5264 東調査区東部でSK8174、SD5266と重複し、SD5266よりも新しい溝である。幅約0.4m、深さ約0.05mと残りが悪い。第78次調査で確認された溝の西側延長部分である。
- SD8156 東調査区南西部で検出した。幅0.5～1.0m、深さ約0.4mの溝である。重複関係からSD8155より新しく、SD8147より古い。完形の土師器杯A(27)が出土している。
- SD8144 西調査区の東端付近で検出した。南半分を粘土採掘坑に、東を時期不明の土坑に壊されているが、方向性からSD5260・SD8151の延長部にあたる可能性が高い。
- SD5254 東調査区東部で検出した。第78次調査区から続くが、東調査区の中央にある粘土採掘坑の直前で止まっている。この粘土採掘坑の西側では溝の延長部分の確認はできなかった。今回の調査では、時期の特定できる遺物は出土していないが、第78次調査の結果からこの時期のものとする。
- (3) 斎宮第Ⅱ期第4段階
- この時期の遺構には、土坑1基、溝2条等が確認されている。
- SK8142 西調査区の中央東よりの位置、SK1711の下層で検出した。直径約1.0m、深さ約0.2mで、北側は更に0.1mほど深くなる。
- SD8141 西調査区中央で検出した調査区方向に沿う溝である。斎宮第Ⅲ期のSK7711の下層で確認され、同期のSD8128に先行する。
- SD8166 東調査区中央付近で検出した。幅0.6～0.9m、深さ約0.15mである。西端は、粘土採掘坑の東で止まっており、東に約7.5mほど続き、更に東へは断続的に認められる。溝の東側延長として、第78次調査区のSD5255と適当な位置関係にあるが、平面の形状や幅、SD5255の出土遺物が鎌倉時代であることなどから同一の溝とは考えられない。
- (4) 斎宮第Ⅲ期
- この時期の遺構には、掘立柱建物1棟、土坑7基、溝11条等が確認されている。
- SB7715 東調査区北西隅で検出した。第115-1次調査で東西2間分の柱穴が確認されていたが、今調査で、この柱列の南で南に2間分の柱穴を確認し、桁行2間、梁間2間の総柱建物であることがわかった。
- SK7711 西調査区の中央北部で検出した。東西約9.5m以上、南北約5m以上である。SK8140、

SD7712、SD8139よりも古い。ロクロ土師器(46~48)、緑彩陶器段皿(45)が出土している。

SK8140 西調査区中央北部で検出した。SK1711と重複関係にあり、SK1711よりも新しい。長径約0.7m、短径約0.6m、深さ約0.14mの円形土坑である。

SK8127 西調査区北西隅部で検出した。SD8126と重複関係にあり、SD8126より新しい。長径約2.5m、短径約1.2m、深さ約0.5mの楕円形土坑である。

SK8160 斎宮第三期のSD8147及び鎌倉時代のSK8162に壊される。遺構確認面では1基の土坑でみられたが、調査の結果では土坑底部は凹凸があり、数基の土坑があまり時間差をおかず、造られたと判断された。

SK8135 西調査区西中央で検出した1m前後の楕円形の土坑である。SK8136からは、土師器杯A(33)が出土した。

8136・8138 SD8158 東調査区の南西部で検出した。東を粘土採掘坑に壊され、長さ約1.5m、幅約0.3m、深さ約0.1mである。

SD8159 SD8158の南で検出され、SD8158とほぼ同規模で平行している。土師器小皿(35)、灰釉陶器椀(34)が出土している。

SD8128 西調査区の中央部で、調査区の方向に沿い、西から東までわずかに北側に弯曲して延び、東端が粘土採掘坑により破壊される。幅0.8~1.4m、深さ約0.25mの規模である。

SD5256 東調査区の中央部東半で検出され、調査区の方向に沿い、中央部の粘土採掘坑まで認められる。第78次調査区から続く溝であるが、西調査区のSD8128よりはやや北に位置しており、直接的には繋がらない可能性が高い。ロクロ土師器(49)、灰釉陶器(50)、山茶椀(51)が出土している。

SD7469 西調査区東端で、第111-2次に検出した同遺構の続きを検出した。

SD7470 西調査区北部で、調査区に沿うような形で検出した。幅0.8~1.0m、深さ約0.5mの溝で、東調査区の西から37mの所で終わっている。土師器杯G(37)ロクロ土師器小皿(38・39)山茶椀(41~43)等が出土している。

SD7712 SD7470と直交する形で第111-2次調査で検出された同遺構を検出した。ほぼ同時期と思われるSD8139とも直交している。同時期の溝8128に切れ、それ以南には続かない。

SD8139 SD7712と直交する溝で、SD7712との前後関係は不明である。長さは9.5m確定でき東端は近代の粘土採集土坑に壊され、東調査区の続きは確認できない。

SD8131 西調査区南西で検出した幅約0.3m、深さ約0.05mの深さである。長さは4m確定でき、調査区外へ続く。

SD8146 東調査区北西で検出した幅0.3~0.6m、深さ約0.05の溝である。長さは6.5mで、東を粘土採集土坑に壊される。

SD8147 東調査区中央付近で検出した。幅約0.4m、深さ約0.3mの溝で、北端は調査区に直交し、途中西にカーブする。北端付近には溝底には径0.5mほどのピットが多数掘削されている。土師器小皿(55)等が出土した。この他、奈良時代と思われる土器も出土し、溝底のピットの中には奈良時代に遡るものも存在した可能性が高い。

SD8152 SD8147とほぼ平行する溝である。

(5) 鎌倉時代

この時期の遺構には、井戸1基、土坑3基、溝5条が確認されている。

SE7710 第115-1次調査区の北西隅部で平面の1/4ほどを確認した井戸である。東西方向で長径約2.1m、南北方向で短径1.7m、掘形の深さ約0.5mで傾斜を変え、一辺約1mの略方形となる。深さ約1.5mまで調査を進めたが、崩壊の危険性があるため、井戸底までの調査は断念した。山茶碗(53・54)が出土した。

SK8162 東調査区中央西よりで検出した土坑であり、SK8162は、径約0.9m、深さ約0.5m、
8164 SK8164は、径約1m、深さ約1mである。SK8164からは山茶碗(52)が出土している。

SD8168 東調査区の東部で確認された南北溝群である。ともに長さ約13mほどで南端は途切れ
8169・8170 る。SD8168は、幅約0.8m、深さ約0.1mで溝の方向は北から東へ約15°振っている。SD
8169は、幅1~1.2mで、深さ約0.15mで、溝の方向はSD8168と同方向である。SD8170
は、SD8169から分流したものであり、幅約0.8m、深さ約0.05mと浅い。

SD7468 第111-2次、第115-1次で確認された溝である。

SK8181 西調査区SD8130の南でSD8130を切る形で検出した。径約1m、底は数個のピット
が集まった形になっている。土師器小皿(56)が出土した。

(6) その他

SD8132は、西調査区南端付近で検出した。幅約0.85m、深さは約0.2~0.3m、溝方
8133・8145 位は約E14°Sである。埋土は、黒褐色の“黒ボク”であり、溝の底には溝と直角方向
に多数の小穴がみられた。この検出状況と酷使する遺構に、斎宮第三期に埋没したSD
8128の下層でSD8133が検出され延長にはSD8145が同形状で攪乱されている。両者とも
に遺物をほとんど含まないため、時期が決定し難い。埋土及び遺構の形状から両者
は、斎宮第一期に遡る可能性も示している。また、溝芯々で約9mの間隔を保ち、直
線的に平行しており、道路の両側溝である可能性が高い。(西村 美幸)

3 遺物

第127次調査で出土した遺物は、すべてが土器類であり整理箱で44箱である。遺物の
時期は、奈良時代後期から鎌倉時代に及ぶ。以下に一括遺物など主要な遺物を中心に報
告する。

なお、本年平成12年度に『斎宮跡発掘調査報告I』を刊行しており、斎宮跡の土器
編年は、同報告による編年(2000編年)による。

(1) 斎宮第一期

SK8173 ピット状の遺構から出土した土師器の蓋(22)である、口径14.4cm、器高4.2cmで、
丸みをもつ天井部に擬宝珠の比較的古式のつまみがつく。天井部外面は、ヘラケズリ
の後粗くヘラミガキする。単独の出土であるが、斎宮第一期前半の第1段階~第2段
階の時期であろう。

SK8134 土師器杯A、杯G、皿A、鍋A、甕A、甕Cが一括出土し、甕の個体数が多い。

杯A(1)は、推定口径15.2cm、器高3.1cmで、径高指数20.4である。口縁部は、わ
ずかに外反して外方に伸び、端部は丸くおさめられる。口縁部は、ヨコナデ調整し、
底部外面をヘラケズリで調整する。

杯G(2~5)は、口径13.5~13.7cm、器高3.5~4.4cmで(2・5)のように径高指数が

27.7~32.6と大きいもの、(3・4)のように25.9~26.5cmと低いものがある。杯Gは、胎土に砂粒を比較的多く含み、明黄褐色を呈する。また、粘土紐の接合痕もよく残すことが多い。調整は、外面を指オサエ、ナデで調整し、内面をナデ調整する。

皿A (6・7) は、(6) が推定口径15.8cm、器高2.5cm、(7) が口径16.4cm、器高2.0cmである。底部外面をヘラケズリし、(6) ではその範囲が口縁直下まで及び、(7) ではラケズリの後ヘラミガキ調整し、内面には螺旋暗文を施す。

鍋B (8) は、口径18.4cm、器高8.5cmで、口縁部は、く字状に外反して外方に開く。口縁部をヨコナデし、体部外面をタテハケ調整、内面を横方向にナデ調整、底部内外面ともにヘラケズリする。

甕A (9~14) は、全体に小型甕に属するものであるが、更に法量から推定口径15.2cm、器高11.3cmのもの (9) と口径16.5~18.0cm、器高12.5~15.4cmのもの (10~14) に区分される。形態からは、底部が丸みをもつ(11・12)と平底に近い形状をなす(9・10・13・14)のものがある。調整は、体部外面を縦方向にハケメ調整、内面は上部を横方向にハケメ調整、下部をヘラケズリするのが基本であるが、ヘラケズリの範囲は底部にとどまるもの(9)から口縁部近くに及ぶもの(11~12)までである。また、内面をすべてヘラケズリするもの(14)もある。

甕C (15~21) は、長胴甕であり、く字状に外反する口縁部に胴径をほぼ同じくする胴部が長くつけられ、底部は丸く仕上げられる。口径22.0~25.5cm、器高は38cm前後となる。調整は、体部外面を縦方向にハケメ調整、内面上部を横方向にハケメ調整、下部を縦方向に底部からヘラケズリする。ヘラケズリの範囲は、下半にとどまるもの(17・18・20)、上部にまで及ぶもの(15・16・19)があり、上部のヨコハケもわずかに施されるだけで、成形時の指による圧痕ののこるもの(21)もある。

SD8129 土師器杯A (23) と須恵器甕 (24) が出土している。杯A (23) は、口径15.6cm、器高3.2cmで、口縁部と底部の境は丸みをもち、やや新しい要素をもっている。底部外面から口縁部中ほどまでヘラケズリし、第3段階でも新しい時期に属する。甕 (24) は、体部以下の出土であり、注口部及び高台の形態から、斎宮第I期第2段階と考えられる。

SD8149 土師器鍋B (25) は、口径37.8cmで把手以下を欠く。口縁部は、屈曲して外方に開き、端部は外方に面をつくる。内外面のハケメ調整は丁寧であり、時期はやや遡る可能性もある。

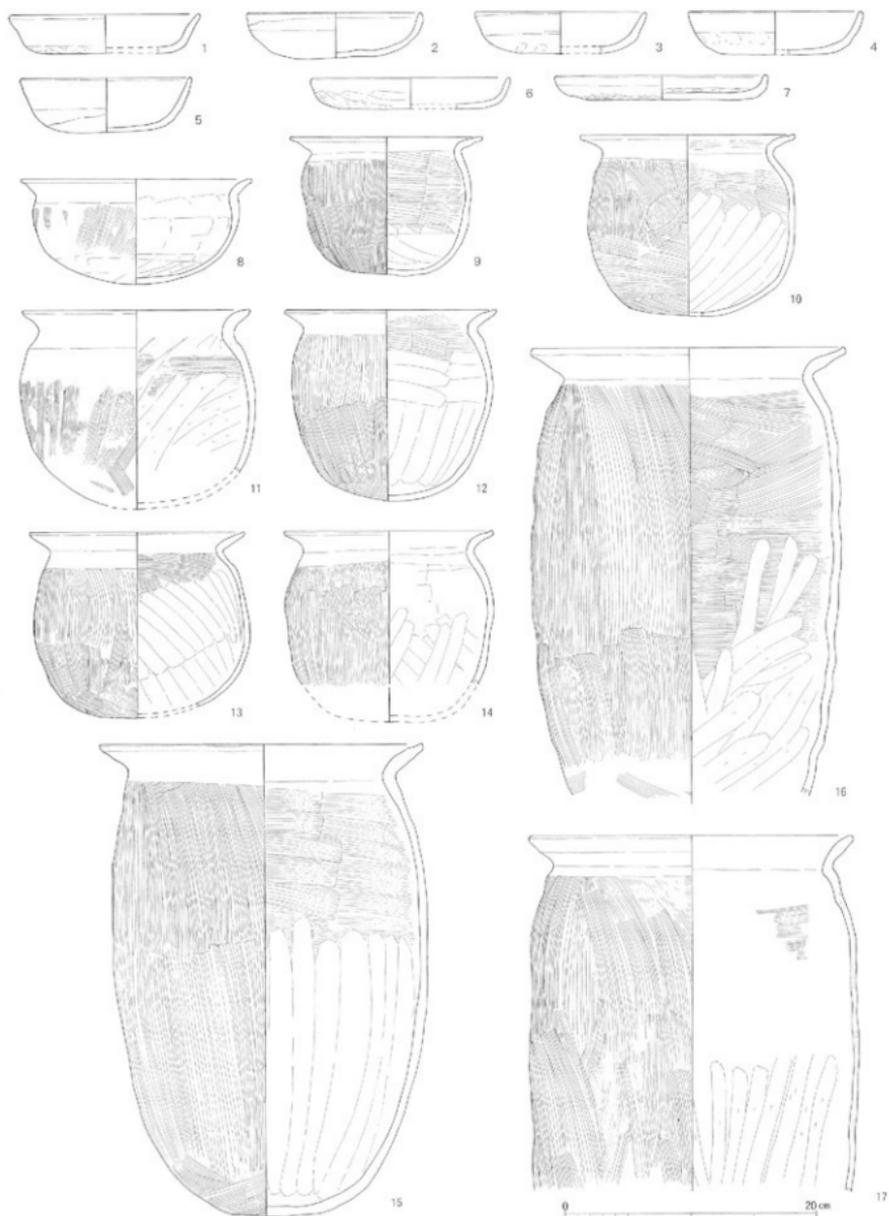
SD8126 土師器鍋A (26) は、口径45.7cm、推定器高23cmで、やや深目の器形となる。口縁部は、斜め外方に開き、端部は角張る。底部は、平底に近い形状となる。

(2) 斎宮第II期

SD8156 土師器杯A (27) は、口径13.8cm、器高3.0cmでわずかに外弯して外方に開く。底部外面にはヘラ記号が施される。底部外面をヘラケズリで調整する。器壁は、薄くなってきている。第1段階の土器と考えられる。

SD5260 土師器杯A (28) は、口径13.8cm、器高2.9cmで、器壁は薄く、口縁部は大きく外弯して開き、端部が積み上げられる。外面調整は、ヨコナデで仕上げる e 手法である。

SK8163 土師器杯 (29) は、口径13.9cm、器高3.1cmで、緩く外弯して開く口縁部は、端部で積み上げられる。外面調整は、ヨコナデ調整の e 手法である。SD5260・SK8163の土器



第4図 第127次調査 遺物実測図(1) S K 8134

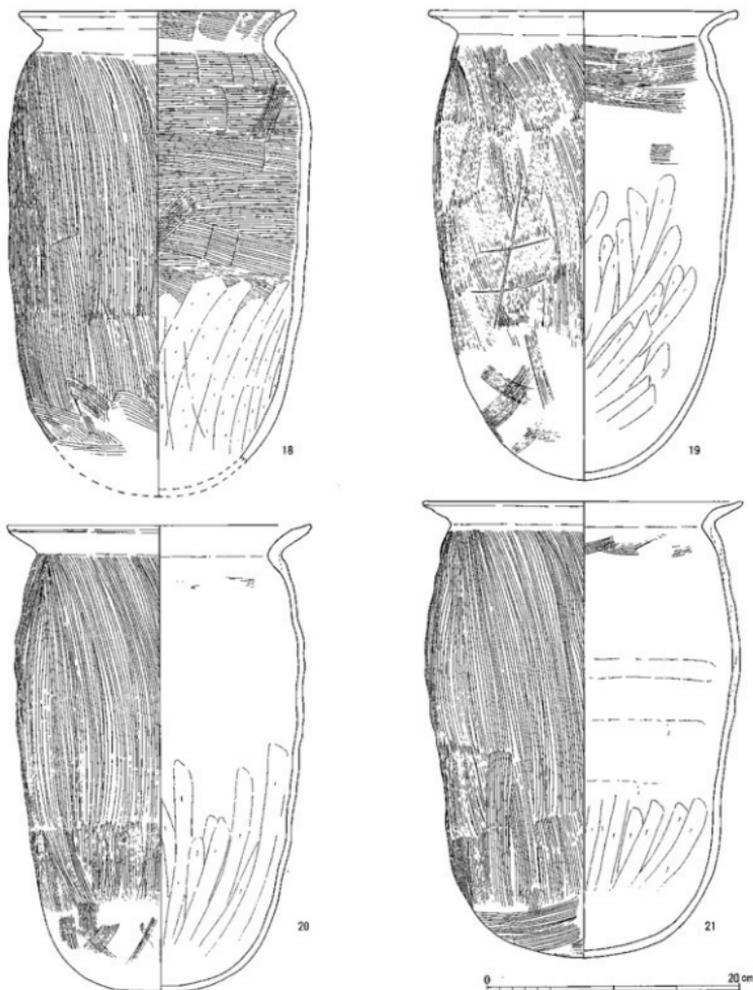
は第Ⅱ期でも、古い時期に該当し、第2段階と考えられる。

SD8161

土師器杯A (30・31) は、(30) が口径14.1cm、器高3.4cm、(31) は口径13.5cm、器高2.8cmで、ともに口縁部と底部の境が丸みをもち、器壁は薄く、口縁端部の外反が強い。外面調整は、ヨコナデ調整のe手法である。

SD8151

土師器杯A (32) は、口径14.5cm、器高2.8cmで、径高指数19.3と小さくなり、扁平な器形を示す。外面調整はヨコナデ調整のe手法である。SD8151・SD8161の土器は、



第5図 第127次調査 遺物実測図(2) SK 8134

器壁も薄くなり、第3段階のものと考えられる。

(3) 斎宮第Ⅲ期

SK8136 土師器杯A(33)は、口径15.6cm、器高3.1cmで、器壁は比較的厚く、外面に指圧痕。
SD8159 土師器小皿(35)、灰釉陶器椀(34)などが出土し、時期幅が大きい。灰釉椀は、底部のみで高台径6.5cmで、高台は断面長方形で角張るものである。小皿(35)は、推定口径9.3cm、器高2.1cmで、丸みをもつ小皿で、鎌倉時代まで降る。

SD7470 土師器杯G、小皿、ロクロ土師器、山茶椀が出土している。ロクロ土師器椀(36)は、推定口径15.8cm、器高6.7cmで、口縁部が大きく内湾して開き、端部がわずかに外反する。口縁部の丸みは少ない。底部外面に糸切痕を残す。

土師器杯G(37)は、口径12.5cm、器高3.9cmで、粗製椀の範疇に入るものであるが、口径も小さくなり、底部は丸みの強い形態を示す。

ロクロ土師器小皿(38・39)は、口径9.3~9.9cm、器高2.1~2.3cmで、口縁部はほぼ直線的に開き、底部は擬高台を意識した平底となる。底部外面に糸切痕を残す。

(40)は、非ロクロ製で底部をナデ調整する。

山茶椀(41~43)及び鉢(44)は、高台部分のみの出土である。高台は、断面逆台形で、丁寧なつくりである。藤澤編年の第Ⅰ段階第2型式から第Ⅱ段階第3型式のもので斎宮第Ⅲ期第3段階以降と考えられる。

SK7711 ロクロ土師器、緑釉陶器段皿が出土。ロクロ土師器(46~48)は、擬高台の(46)と高い高台をもつ(47・48)があり、ともに小型の皿である。緑釉陶器段皿(45)は、口径14.0cm、器高2.7cmで、緩く内湾して開く皿部に低い高台が貼り付けられる。皿は輪花となり4箇所指オサエで小さな輪花を付ける。皿部内面には、重ね焼きのトチン痕が4箇所のこる。高台は、低く、内面は二段にケズリだされる。淡黄緑釉がかけられる。この製品は、黒笹90号窯式のもので斎宮第Ⅱ期第3段階に属する。

SD5256 ロクロ土師器、灰釉陶器椀、山茶椀等が出土。ロクロ土師器台付小皿(49)は、推定口径8.6cm、器高2.8cmで、高い高台がつく。

灰釉陶器椀(50)は、推定口径14.9cm、器高6.1cmで、緩く内湾する体部は、口縁端部が外反する。高台は高く、断面長方形で外方に踏ん張る。灰釉は、漬掛する。この製品は、折戸53号窯式のもので、斎宮第Ⅱ期第4段階まで遡るものである。

山茶椀(51)は、体部下半から高台部分の出土であり、高台は断面逆台形を示す。

(4) 鎌倉時代

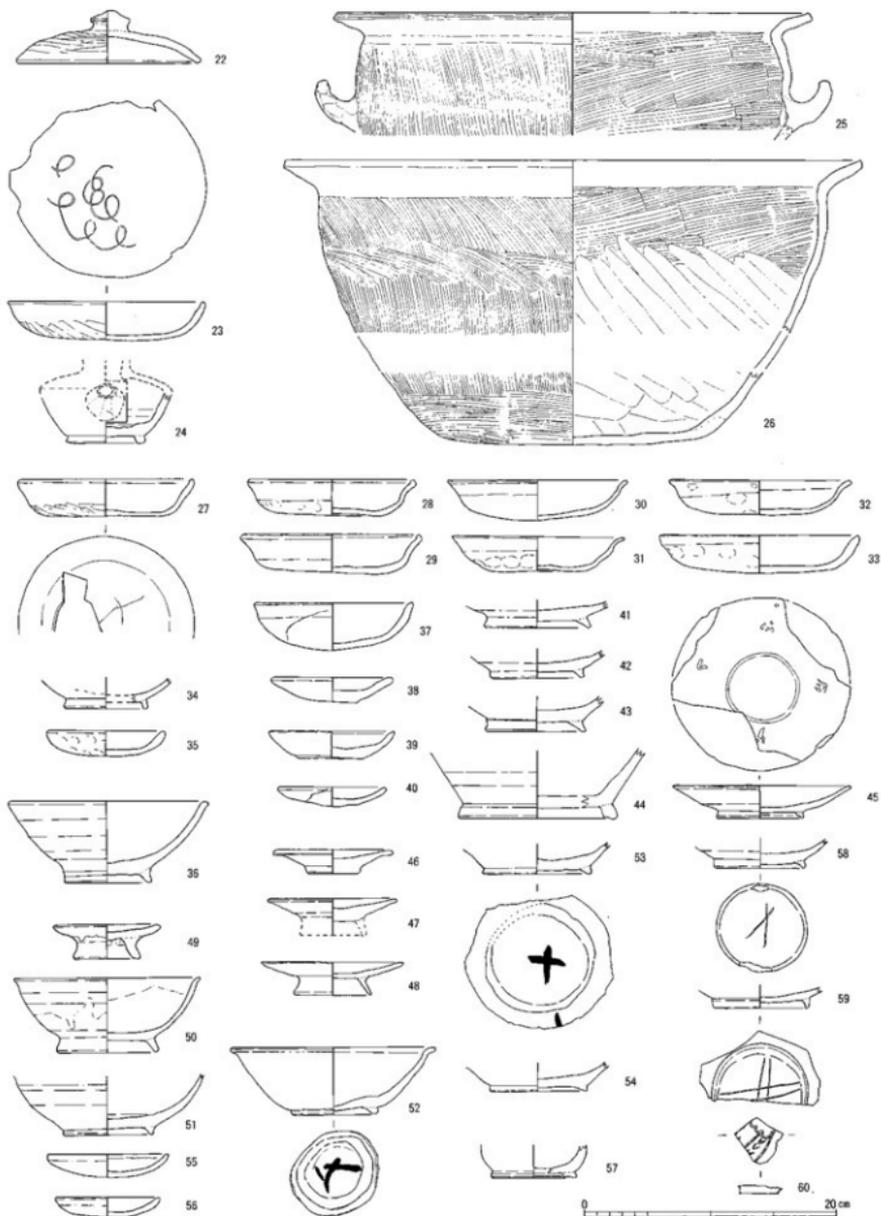
SK8164 山茶椀(52)が出土。(52)は、口径16.0cm、器高5.4cmで、緩く内湾して開く口縁部は端部で強く外反する。底部は、平面形が壺である。断面方形の高台が貼り付けられる。底部外面に「ヤ」の墨書が認められる。

SE7710 山茶椀が出土。(53)は、高台径8.7cmで、断面逆台形の高台が貼り付けられ、外面に「ト」の墨書がある。(54)は、高台径7.8cmで、低い高台は、断面逆台形を示し、靱殻圧痕が認められる。

SD8147 土師器小皿(55)は、口径9.5cm、器高2.0cmで口縁部と底部が境をもたず、全体に丸い形状を示す。

SK8181 土師器小皿(56)は、口径8.3cm、器高1.6cmで形態は、前者と同じである。

(5) 特殊遺物



第6図 第127次調査 遺物実測図(3)

SK8173:22, SD8129:23, 24, SD8149:25, SD8126:26, SD8156:27, SD:5260:28, SK8163: 29,
SK8161:30, 31, SD8151:32, SK8136:33, SD8159:34, 35, SD7470:36~44, SK7711:45~48
SD6256:49~51, SK8164:52, SE7710:53, 54, SD8147:55, SD8181:56, 包含層:57~60

- 須恵器線刻文 (60)は、須恵器平瓶の体部外面に、ヘラ状工具により波文、羽状文、直線区画文を刻む。
- 緑釉陶器唾壺 (57)は、高台と底部のみの破片であり。高台は、径6.6cmで、端部内面が緩く内湾する。底部は丸みをもつ。淡緑釉が外面にかかる。
- ヘラ記号 底部外面にヘラ記号をもつ灰釉陶器 (58・59)である。 (駒田 利治)

4 結 語

第127次調査は、古代の官道である伊勢道の敷設状況、方格地割との関係及び周辺遺構との関係を明らかにするため設定した調査であった。

調査の結果、西北西から東南東の方向に延びる奈良時代後期から平安時代末期の溝数条が確認され、平安時代後期及び鎌倉時代にはこの溝に直交する北北東から南南西方向の溝が敷設されたことが判明し、平安時代後期を境にこの区画の土地利用が大きく変化したことがうかがえる。

伊勢道の変遷 最も早く敷設された溝は、SD8130・SD8157と第78次調査区から続くSD5266であり、調査区内における溝底中心での方向には微妙な差異が認められるが、第78次調査でのE16°SとSD8130での測定値E15°Sは近似し、同一の溝と捉えることができる。第78次調査区の東端の溝底中心点と第132次調査区西端の溝底中心点での測定値によれば、溝方向は、E17°26'Sの数値が得られる。溝の埋没時期は、SD8130とSK8134の重複関係から、SK8134がSD8130埋没直後に設けられた土坑と考えられることから斎宮第1期第4段階以前の奈良時代の第3四半期頃と推定される。また、出土遺物がきわめて少ないため時期が確定できないが、SD8132とSD8133・SD8145も溝芯々の距離が約9mで平行し、埋土の状況から斎宮第1期の奈良時代に遡る可能性が考えられる。

SD8130等は、史跡西部で確認されているSD0170に繋がると推定される溝であり、伊勢道の南側溝を構成する溝であるが、北側溝として断定できる溝は特定できない。

この溝は、方格地割内の第132次調査区以東では、第12-2次調査、第111-3次調査(SD7478)、第28次調査(SD1395)、第83次調査(SD5857)、第98次調査(SD6802)、第88次調査(SD6252)、第92次調査(SD2404)、第106-5次調査(SD6602)で確認されており、第28次調査区以東ではこの溝の北側に約9mの間隔を置いて平行する溝が確認され、この両側溝に挟まれた空間を同時代の遺構が認められないことも証左として道路遺構としている。方格地割内におけるこれらの溝は、方格地割が造営された奈良時代後期にあたる斎宮第1期第4段階では消失している。その後、地割内においては、この方向を採用する溝は確認されず、方格地割の基準軸であるN4°Wに振った方位を基準として、南北東西方向に縦走する溝が大半を占める。

しかしながら、第127次調査区が位置するこの区画では、この後も西北西から東南東の方向に敷設された溝が認められる。

平安時代前半の斎宮第2期では、埋没時期を第1段階或いは第2段階と断定できる溝はなく、第3段階に埋没したと考えられる溝に南から西調査区のSD8129、東調査区でSD5260とその延長とみられるSD8151・SD8144、第78次調査で平安時代前期としたSD5254とその延長部分及びその南に隣接するSD8149・SD8165とその延長と考えられ

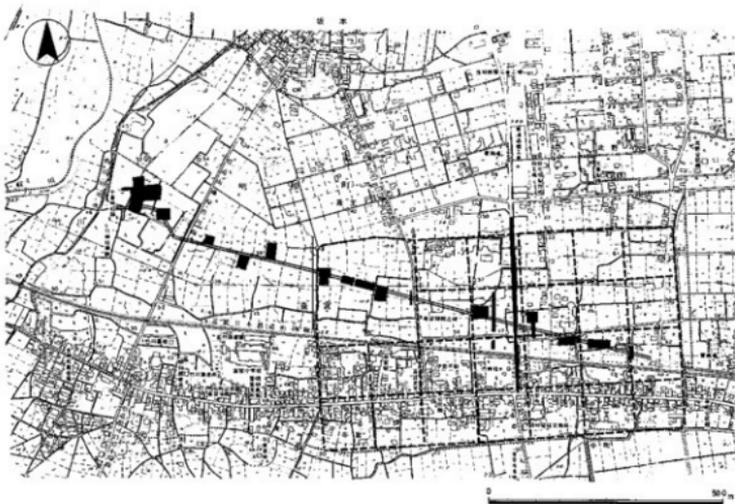
る西調査区の北西部のSD8126が認められる。当該時期の溝は、東調査区で多く検出されており、第78次調査区からの延長として捉えられるが、近代の瓦粘土探掘坑による攪乱にも分断され、溝方向は特定し難いが、概ねE15°SからE20°S方向をとる。

また、斎宮第Ⅱ期第4段階の平安時代中期の溝は、西調査区のSD8141、東調査区のSD8166の2条が、長さ10m未満で確認されるにとどまっている。

斎宮第Ⅲ期の平安時代後期になると、従来の方向を踏襲した溝が認められるのとその後半には、これらの溝に直交する方向をもつ溝が出現してくる。前者には、西調査区のSD7470、SD8128があり、東調査区の第78次調査区のSD5256とその延長部分、第78次調査区内で途絶えているSD5262に繋がる溝とも捉えられる。SD7470—SD5256、SD8128—SD5262は、それぞれに、弯曲したり、微妙な溝方向の違いが認められ厳密性を欠くが、ともに約E19°Sの方向をもち、両溝は約5mの間隔を保っており、SD7470—SD5256が第2段階、SD8128—SD5262が第3段階と埋没時期にわずかな時間差をもつが、同時存在していた可能性も残されており、この時期にいたっても道路が機能していたと考えられる。

この後、これまで踏襲されてきた西北西から東南東方向の溝に変わり、これに直交する溝が出現する。SD7712は、SD7470の埋没直後と判断され、第2段階には機能的転換が図られたとみられる。同じ方向の溝には、東調査区のSD8147、SD8152がある。溝の形状は大きく弯曲しており区画溝としての機能には疑問がもたれる。

鎌倉時代には、東調査区で前代の方向を受けて南北方向の溝SD8168～8170が確認されており、SD8168とSD8169は溝芯々間約2.4mの小径の両側溝と考えられ、この直ぐ東側に盛土を伴った農道があり、同様な機能をもっていたものと判断される。この時期には、井戸SE7710も確認されており、斎宮第Ⅲ期第2段階の掘立柱建物SB7715との存



第7図 斎宮跡史跡内の伊勢道調査地点(1:10,000)

在から、平安時代後期以降は、小規模な集落形態をなしていたと考えられる。

以上のように溝遺構が多い当調査区の変遷を辿ってみたが、斎宮第Ⅰ期第Ⅲ段階にあたる奈良時代中期後半に官道としての伊勢道が後の方格地割東部まで直線道路として敷設され、方格地割の成立をみる斎宮第Ⅰ期第Ⅳ段階にあたる奈良時代後期に一度消失した道路・溝は平安時代前期の斎宮第Ⅱ期第Ⅲ段階を中心に、明確にし難い点も残されているが、前代の位置と方向を踏襲して、道路としての機能を保有しており、それは斎宮第Ⅲ期第Ⅱ段階の平安時代後期まで継続される。そして、この時期以降、溝の方向が大きく変換されることにみられるようにこれまでの道路としての機能も変化したものと思われる。

従って、当該区画では遺構の埋没状況から断続と捉えられるが、道路として機能を永く保持しており、方格地割北西隅部における方格地割との関係に疑問点が残る。これまでの調査、特に第113次調査、第116次調査の結果から、当該地区の区画施設は他の区画とは異なり、4区画分が1区画として大きく区画されており、区画外周施設は緩く蛇行する溝で区画されており、その区画された施設の時期は斎宮第Ⅲ期第Ⅰ段階を遡りえないとの見解を得ている。

一方、この区画の北部分の地形的にやや低地に位置する第78次調査、第82次調査結果では、斎宮第Ⅱ期第Ⅱ段階の掘立柱建物S B5271は、上記の溝方向に棟方向をあわせるが、第Ⅱ期第Ⅲ段階以降は、方格地割内の建物方向と同じ傾向を示し、正方位或いは北から2～3°東に棟方向を振る。第82次調査でも、第Ⅰ期の建物は、棟方向を溝群の方向にあわせるが、第Ⅱ期の段階になると第78次調査結果とほぼ同様な傾向を示している。このことは、第Ⅰ期第Ⅳ段階で方格地割の成立をみるまでは、伊勢道に規制された土地利用を示していたが、方格地割成立以降は、明確な外周区画施設をもたない当区画においても、建物は明らかに地割の規制を受けていたと考えられる。しかし、一方で第Ⅱ期、第Ⅲ期を通じて西北西から東南東方向の溝は存在し、道路も機能していたと考えられ、区画割りと当区画の機能については課題はのこる。

(西村美幸 駒田利治)

Ⅲ 第129次調査

(6AEU)

1 はじめに

経過 第129次調査は、御館区画西端で実施した。調査地の北端と南端に東西15m、南北4mの調査区を2ヶ所設定し、さらに両者をつなぐ東西2m、南北23mの調査区を設定した。調査面積は166㎡である。現況は雑種地である。

目的 今回の調査地は方格地割の南北道路の東側溝が想定される場所であり、その状況を把握するために実施した。周辺では約30m北で第121-3次調査が実施されているが、近代の瓦粘土採掘のため、遺構面が攪乱され、遺構は確認されていない。

現況 現況の表土の厚さは0.2mで、褐灰色土(耕作土)である。表土以下は攪乱土坑の埋土である。



第8図 第129次調査 調査区位置図(1:2,000)

2 遺構

北調査区は近代の瓦粘土採掘のため、全面にわたり攪乱されており、遺構は確認できなかった。調査区の北側の幅1mの部分のみを掘り下げ、表土の上面から1.4mで灰白色粘土に達した。表土上面から0.3mの深さでごく一部に幅0.2m前後の灰白色粘土がみられることから、本来の遺構面はこの高さであったと想定される。

南調査区は第1層は褐色灰色土(耕作土)の厚さが0.2m前後で、すぐに遺構検出面となる。遺構検出面は灰白色粘土である。遺構は検出されず、西端に粘土採掘のための攪乱土坑がみられた。調査区の南東の畑地より約0.8m前後低く、本来の遺構面が削平された可能性がある。

中央調査区は、南調査区で確認された灰白色粘土の状況を確認するために設定したもので、その結果、南調査区との交点から0.4mまでは灰白色粘土が残っていたが、それより北はすべて攪乱土坑が北調査区まで続く。

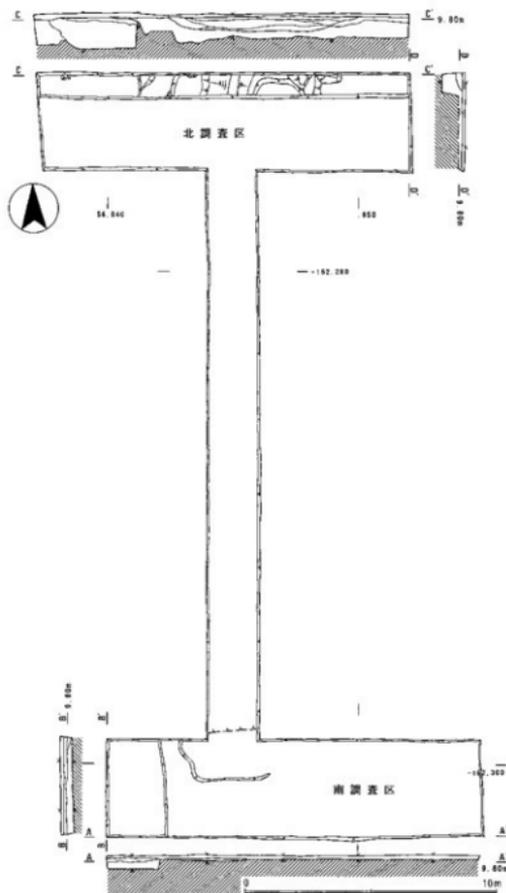
3 遺物

今回の調査で出土した遺物は少なく、整理箱で4箱分である。そのほとんどが攪乱土坑埋土の遺物で、奈良時代後期から平安時代後期の土師器杯・甕、須恵器杯・甕、灰釉陶器碗などの他、近世の土師器皿・焙烙もある。

4 まとめ

今回の調査地は大半が近代の瓦粘土採掘のため遺構面が攪乱され、遺構は確認されなかった。遺物から当該区画が奈良時代後期には機能していたことが裏付けられる。

(上村 安生)



第9図 第129次調査 遺構実測図(1:200)

第3表 遺物観察表(第127次調査)

No	出土遺物	群 種	法 量	調整・技法の特徴	胎 土	焼 成	色	調	残存度	備 考	登録No
1	SD8134	土師器 杯 A	口径(15.2) 器高 3.1	口縁部ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ、底部内面ナデ	黒褐色	良 好	内：赤褐色 外：*	5Y R5/6	口縁部 75%		R8
2	SD8134	土師器 杯 G	口径 13.7 器高 3.8	ヨコナデ、外面オサエ後ナデ、内面ナデ	密	良 好	内：橙 外：*	7.5Y R8/4	75%		R2
3	SD8134	土師器 杯	口径 13.6 器高 3.6	口縁部ヨコナデ、外面オサエ後ナデ	やや粗	良 好	内：灰白 外：黄褐色	10Y R5/2~ 10Y R5/3	25%	内面微しく磨耗底部 継ぎ目	R14
4	SD8134	土師器 杯 G	口径(13.5) 器高 3.5	口縁部ヨコナデ、外面オサエ後ナデ、内面ナデ	密	良 好	内：ぶい橙 外：*	7.5Y R7/4	60%		R10
5	SD8134	土師器 杯 G	口径 13.5 器高 4.4	口縁部ヨコナデ、外面オサエ後ナデ、内面ナデ	密	良 好	内：黄褐色 外：*	10Y R8/4	80%		R3
6	SD8134	土師器 皿 A	口径(15.8) 器高 2.5	口縁部ヨコナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ	密	良 好	内：橙 外：*	5Y R7/8	口縁部 25%		R11
7	SD8134	土師器 皿 A	口径 16.4 器高 2.0	口縁部ヨコナデ、底部外面ヘラケズリ、ヘラギキ、内面横線3条	密	良 好	内：橙 外：*	5Y R6/8	口縁部 50% 底部完存	内面に横線3条	R1
8	SD8134	土師器 鉢 A	口径 18.4 器高 8.5	口縁部ヨコナデ、体部外歪タテハケ、底部外歪ヘラケズリ、内面ヘラケズリ	やや粗 微細な砂粒 多量	中や粗	内：黄褐色 外：*	10Y R8/4	60%	ハケメ6本/cm 器表面微しく摩耗	R9
9	SD8134	土師器 鉢 A	口径 15.2 器高 11.3	口縁部ヨコナデ、体部外歪タテハケ、底部外歪調整ハケ、内面上半ヨコハケ、内面下半ヘラケズリ、底部内面オサエ後ナデ	密	良 好	内：黄褐色 外：*	10Y R8/4	66%	外歪ハケメ10本/cm 内歪ハケメ6本/cm 外面体部薄く剥離、 内面に粘土粒の継ぎ目	R16
10	SD8134	土師器 盃 A	口径 16.8 器高 14.6	口縁部ヨコナデ、体部外歪上半タテハケ、体部外歪調整ハケ、底部外面調整ハケ、内面ナデ、体部内面上半ヨコハケ、体部内面下半一底部ヘラケズリ	密1mm砂粒 少量	良 好	内：黄褐色 外：*	7.5Y R8/6	口縁部 完存底部 75%	ハケメ7本/cm	R18
11	SD8134	土師器 甕 A	口径 18.0 胴部最大径 18.6 残高 15.7	口縁部ヨコナデ、体部外面体部タテハケ、体部内面体部上半ヨコハケ、体部内面体部下半ヘラケズリ	1mm前後 多量	中や粗	灰白 外：*	2.5Y 8/2	70%	ハケメ14本/cm	R19
12	SD8134	土師器 甕 A	口径 16.7 器高 15.4	口縁部ヨコナデ、体部外歪タテハケ、底部外面調整ハケ、体部内面体部ヘラケズリ、底部内面底部オサエ後ナデ	密	良 好	内：ぶい橙 外：*	7.5Y R6/4	50%	外歪体部上半ハケメ 8本/1.5cm、外面体 部下半ハケメ10本/cm	R15
13	SD8134	土師器 甕 A	口径 17.1 器高(15.0)	口縁部ヨコナデ、体部外面体部タテハケ、体部内面調整ハケ、体部内面体部ヘラケズリ	密	良 好	内：黄褐色 外：*	10Y R8/3	70%	外面体部上半ハケメ 6本/cm 外面体部下半ハケメ 9本/cm 器底の一部に二次焼成?	R12
14	SD8134	土師器 甕 A	口径 16.5 残高 12.5	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、体部内歪体部上半体部内面の収ナデ、体部内面体部下半ヘラケズリ	密1mm砂粒 少量	良 好	内：黄褐色 外：*	10Y R8/4	75%	ハケメ8本/cm 外面にヘラ吉形「X」 内面に粘土粒の継ぎ目	R17
15	SD8134	土師器 甕 C	口径 25.5 器高 38.5	口縁部ヨコナデ、体部外面体部タテハケ、底部外面調整ハケ、内面上半ヨコハケ、内面下半ヘラケズリ	密1mm砂粒 少量	良 好	内：黄褐色 外：*	10Y R5/3	95%	外面上半ハケメ 10本/cm 外面下半ハケメ 6本/cm 外歪調整ハケ6本/cm	R22
16	SD8134	土師器 甕 A	口径 24.5 残高 36.1	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ヨコハケ、ヘラギキ	密	良 好	内：黒褐色 外：ぶい黄褐色	7.5Y R4/2 10Y R6/4 10Y R6/4 10Y R4/2	70%		R21
17	SD8134	土師器 甕 A	口径 25.0 残高 28.8	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、体部内歪上半タテハケ、体部内面下半ヘラギキ	密	良 好	内：ぶい黄褐色 外：*	10Y R6/3 10Y R7/3	70%	内面ハケメ微しく摩 耗	R23
18	SD8134	土師器 甕 A	口径 22.0 胴部最大径 23.9 残高 37.1	外縁口縁ヨコナデ、体部外面タテハケ、底部外面不定方向の収ナデ、内面口縁一内部上半ヨコハケ、体部内面下半ヘラケズリ	微細な砂粒 多量	良 好	内：黄褐色 外：*	2.5Y 5/3	70%	外面体部ハケメ 13本/2.5cm 内歪ハケメ 20~21本/3cm 外面下半の一部に使用 痕かとも思われる 不明瞭な黒色物付着	R24

No.	出土遺構	形種	法 量	調査・技法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	残存度	備 考	登録No.
19	SD8134	土 師 器 C	口径(24.0) 器高 38.5	口縁部コナダ、体部外面タテハケ、底部外面磨削ヘラ、内面 上半コナダ、内面下半ヘラ、 ガキ	密	良好	内：ぶい黄緑 10Y R7/4 外：灰黄緑 10Y R5/2	60%	外面にヘラ記号「十」、 外面に煤付層	R25
20	SD8134	土 師 器 C	口径 24.0 器高 38.3	口縁部コナダ、外面タテハケ、 底部外面タテ、体部内面上半コ ナダ、体部内面下半～底部ヘ ラガキ	密	良好	内：ぶい黄緑 10Y R7/4 外： *	80%	内面ヘケメ敷し厚 鈍	R26
21	SD8134	土 師 器 C	口径 25.2 器高 37.4	口縁部コナダ、体部外面タテ ハケ、底部外面磨削ヘラ、底部 内面コナダ、内面体部ヘラケ ズリ、コビチサエエ	密	良好	内：ぶい黄緑 10Y R7/2 灰黄緑 10Y R5/2 外：ぶい黄緑 7.5Y R6/4～7.5Y R7/4	80%	外面底部割離	R20
22	SK8173	土 師 器 蓋	口径 14.4 器高 4.2	口縁部コナダ、外面タテハケ 後ナダ、底いへう、ガキ、内面 ナダ、ツマミ貼付	密	良好	内：橙 5Y R6/8	60%	表面凹凸	R44
23	SD8129	土 師 器 杯 A	口径 15.6 器高 3.2	口縁部コナダ、外面ヘラケズ リ、内面ナダ後縁磨削文字	緻密	良好	内：明赤黄 2.5Y R5/8 外： *	70%	内面に煤磨文字	R46
24	SD8129	須 恵 器 蓋	高台径 6.3	体部外面口コナダ、底部外面 ヘラ後ナダ、内面口コナダ、 高台貼付	1mm以下の 微細な砂粒 多量	良好	内：褐灰 10Y R4/1 外：暗灰 N3/	高台径		R48
25	SD8149	土 師 器 瓶 B	口径 37.8	口縁部コナダ、外唇タテハケ 後ナダ、内面コナダ	密 1mm砂粒 少量	良好	内：浅黄緑 7.5Y R8/4 外： *	25%	ヘケメ7本/2cm	R42
26	SD8126	土 師 器 A	口径 45.7 器高(23.0)	口縁部コナダ、体部外面斜の ハケ～タテハケ～コナダ、底 部外面ヘラ磨削、内面上半コ ナダ、内面下半斜めヘラケズリ、 底部内面ヘラケズリ	密 1mm砂粒 少量	良好	内：浅黄緑 10Y R8/4 外： *	口縁部 25% 底部完存	体部外面下半～底部 に煤付層	R43
27	SD8156	土 師 器 杯 A	口径 13.8 器高 3.0	口縁部コナダ、外面ヘラケズ リ、内面ナダ	密	良好	内：黄 5Y R7/8～5Y R6/8 外： *	70%	底部外面にヘラ記号	R13
28	SD5260	土 師 器 杯 A	口径 13.8 器高 2.9	口縁部コナダ、外面オサエ後 ナダ、内面ナダ	密	良好	内：橙 7.5Y R6/6 外： *	90%		R68
29	SK8163	土 師 器 杯 A	口径 13.9 器高 3.1	口縁部コナダ、外面オサエ後 ナダ	密 1mm砂粒 少量	良好	内：橙 7.5Y R7/6 外： *	75%		R58
30	SK8161	土 師 器 杯 A	口径 14.1 器高 3.4	口縁部内面コナダ、外面オサ エ後ナダ	密	良好	内：淡橙 5Y R8/4 外： *	ほぼ完形		R57
31	SK8161	土 師 器 杯 A	口径 13.5 器高 2.8	口縁部コナダ、外面オサエ後 ナダ、内面ナダ	密	良好	内：浅黄緑 10Y R8/4 外： *	完形		R56
32	SD8151	土 師 器 杯 A	口径 14.5 器高 2.8	口縁部コナダ、外面オサエ後 ナダ、内面ナダ	やや粗 1mm 褐色粒	良好	内：浅黄緑 10Y R8/4 外： *	ほぼ完形	心がみ大 底部外面 に煤付層	R35
33	SK8136	土 師 器 杯 A	口径 15.6 器高 3.1	口縁部コナダ、外面オサエ後 ナダ、内面ナダ	微細な砂粒 多量	やや軟	内：浅黄緑 10Y R8/4 外：灰白 2.5Y R/2	60%		R47
34	SD8159	灰輪陶器 碗	高台径 6.5	内外面口コナダ、体部外面灰 輪磨削付、底部外面未切取、 高台貼付	密	良好	内：灰白 2.5Y7/1 外： * 2.5Y8/1	10%以下 高台径 25%	外面に灰輪磨削、 内面に自然釉付着 重ね残灰	R69
35	SD8159	土 師 器 小 皿	口径(9.3) 器高 2.1	外面オサエ後ナダ、内面ナダ	微細な砂粒 多量	やや軟	内：灰白 2.5Y8/2 外： *	40%		R63
36	SD7470	ロ ク ロ 土 師 器 碗	口径(15.8) 器高 6.7 高台径 6.8	内外面口コナダ、底部外面糸 切取、高台貼付	密	良好	内：灰白 10Y R8/2 外： *	60%		R45
37	SD7470	土 師 器 杯 G	口径 12.5 器高 3.9	口縁部コナダ、外面オサエ後 ナダ、内面ナダ	密 1mm砂粒 少量	良好	内：浅黄緑 10Y R8/4 外： *	40%	外面に粘土織の織ぎ 目	R27
38	SD7470	ロ ク ロ 土 師 器 小 皿	口径 9.3 器高 2.1	内外面口コナダ、底部外面糸 切り	密	良好	内：浅黄緑 10Y R8/3 外： *	50%		R29
39	SD7470	ロ ク ロ 土 師 器 小 皿	口径 9.9 器高 2.5	内外面口コナダ、底部外面糸 切り	密	良好	内：ぶい黄緑 10Y R7/3 外： 褐灰 10Y R5/1	25%		R30
40	SD7470	土 師 器 小 皿	口径 8.7 器高 8.5	口縁部コナダ、外面オサエ後 ナダ	密 1mm砂粒 多量	良好	内：淡黄 2.5Y8/3 外： *	80%	外面に粘土織の織ぎ 目	R28
41	SD7470	陶 器 山 茶 碗	高台径 8.5	内外面口コナダ、底部外面糸 切取、高台貼付	密	良好	内：灰白 2.5Y7/1 外： *		底部のみ	R79

No.	出土遺構	跡 種	法 量	調整・技法の特徴	胎 土	焼 成	色	調	残存度	備 考	登録No.
42	SD7470	陶 器 山 茶 碗	高台径 7.5	内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、高台貼付	密	良 好	内：灰白 外：*	2.5Y7/1 *	底部のみ		R77
43	SD7470	陶 器 山 茶 碗	高台径 8.0	内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、高台貼付	焼結な砂粒多量	良 好	内：黄灰 外：*	2.5Y5/2 *	底部のみ		R78
44	SD7470	陶 器 鉢	高台径12.3	外面ロクロナデ、底部外面糸切り、内面ロクロナデ、高台貼付ナデ	密1mm砂粒	良 好	内：灰白 外：*	7.5Y7/1 *	25%		R31
45	SK7711	緑釉陶器 段 皿	口径 14.0 器高 2.7	口縁部外面ロクロナデ、外面ロクロナデ後ロクロナデ、内面擦輪、高台貼付ナデ	密	良 好	内：青黒緑 外：*		50%	内面全面に旋輪内面に輪花捺定4ヶ所	R5
46	SK7711	ロ ク ロ 土 器 小 皿	口径(9.1) 器高 1.9	内外面ロクロナデ、底部外面糸切り	密1mm砂粒少量	良 好	内：黄褐色 外：*	10Y R8/3 *	25%		R60
47	SK7711	ロ ク ロ 土 器 小 皿	口径 10.0	内外面ロクロナデ、底部外面糸切り後ナデ、高台貼付ナデ	密1mm砂粒少量	良 好	内：黄褐色 外：*	10Y R8/4 *	33%		R61
48	SK7711	ロ ク ロ 土 器 小 皿	口径(11.2) 器高 2.7 高台径 6.0	内外面ロクロナデ、底部外面ナデ、高台貼付ナデ	密	良 好	内：黄褐色 外：*	10Y R8/3 *	20%		R62
49	SD5256	ロ ク ロ 土 器 小 皿	口径(8.6) 器高 2.8 器高 5.5	口縁部ヨコナデ、外面オサエ接ナデ、内面ナデ、高台ヨコナデ高台径 5.5	粗1mm以下の砂粒	良 好	内：灰白 外：黄褐色 外：*	10Y R8/2 10Y R8/3 *	30%		R70
50	SD5256	灰釉陶器 碗	口径(14.9) 器高 6.1 高台径 7.8	内外面ロクロナデ、灰釉擦輪、底部外面糸切り後ナデ、高台貼付	密	良 好	内：灰白 外：*	2.5Y7/1 5Y7/1 5Y7/1	30%	内外面灰釉面擦輪状の重ね焼き痕	R66
51	SD5256	陶 器 山 茶 碗	高台径7.2	外口縁部ヨコナデ、内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、高台貼付	密	良 好	内：灰白 外：*	10Y R7/1 *	40%	内面に自然輪がオマメ状に付着	R67
52	SK8164	陶 器 山 茶 碗	口径 16.0 器高 5.4 高台径 6.3	内外面ロクロナデ、底部外面糸切り、擦輪、高台貼付ナデ	密2～3mm粒少量	良 好	内：灰白 外：*	N7/ *	完形	外面底部に墨書	R55
53	SE7710	陶 器 山 茶 碗	高台径 8.7	内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、底部外面と底部に墨書、高台貼付	砂粒多量	良 好	内：灰白 外：*	5Y7/1 *	底部のみ	外面底部に墨書+、外面底部に墨痕	R75
54	SE7710	陶 器 山 茶 碗	高台径 7.8	内外面ロクロナデ、底部外面糸切痕、高台貼付	1mm砂粒多量	良 好	内：灰白 外：黄灰	5Y7/1 10Y R6/1	底部のみ		R76
55	SD8147	土 師 器 小 皿	口径 9.5 器高 2.0	口縁部ヨコナデ、外面ニヒオサエ、内面ナデ	2mm以下砂粒	良 好	内：洗黄褐色 外：にぶい黄褐色	10Y R8/3 10Y R7/3	ほぼ完形		R51
56	SK8181	土 師 器 小 皿	口径 8.3 器高 1.6	口縁部ヨコナデ、外面オサエ接ナデ、内面ナデ	焼結な砂粒多量	良 好	内：にぶい黄褐色 外：洗黄褐色	7.5Y R7/4 10Y R8/3	完形		R52
57	G23 包含物	緑釉陶器 壺	高台径6.6	体部外面回転ヘラズリ、内面ヨコナデ、高台貼付	密	軟 質	内： 外：		30%		R4
58	M16 包含物	灰釉陶器 碗	高台径7.0	内外面ロクロナデ、底部外面糸切り後ヘラ磨削、高台貼付	密	良 好	内：黄灰 外：*	2.5Y6/1 7.5Y6/2	底部のみ	底部外面にヘラ磨削「*」、内面体部に自然輪付着	R6
59	M17 遺物上 置	灰釉陶器 碗	高台径(7.3)	内外面ロクロナデ、底部外面糸切り後ヘラ記号、高台貼付	密1mm砂粒	良 好	内：灰白 外：*	10Y R8/1 10Y R7/1	底部50%	底部外面にヘラ記号	R49
60	M17 包含物	須 磨 器 平 皿	口径 器高	内外面ロクロナデ、外面磨削	密	良 好	内：灰白 外：黄灰	5Y7/1 2.5Y6/2	—	縁部面に自然輪	R7

第4表 斎宮跡発掘調査回数一覧表

回数	年度	調査地区	回数	年度	調査地区
1	S45	試掘	13-8	51	西加座2771-1 (細井)
2	46	古里A地区	13-9		# 2773 (細井)
3		# B地区	13-10		東 裏362-1 (児島)
4	47	# C地区	13-11		西加座2681-1 (浮田)
5	48	# D地区	13-12		# 2721-3, 2724-2 (森川)
6-1		Aトレンチ	13-13		東前沖2506-2 (宮下)
6-2		Bトレンチ	14-1	52	2 Eトレンチ
6-3		Cトレンチ	14-2		2 Fトレンチ
6-4		Dトレンチ	14-3		2 Gトレンチ
6-5		Eトレンチ	14-4		2 Hトレンチ
7	49	古里E地区	14-5		2 Iトレンチ
8-1		Fトレンチ	15		斎宮小学校
8-2		Gトレンチ	16-1		竹川町道A
8-3		Hトレンチ	16-2		# B
8-4		Iトレンチ	16-3		# C
8-5		Jトレンチ	16-4		# D
8-6		Kトレンチ	16-5		# E
8-7		Lトレンチ	16-6		# F
8-8		Mトレンチ	17-1		竹神社事務所
8-9		Nトレンチ	17-2		竹神社防火用水
8-10		Oトレンチ	17-3		西加座2721-6 (西沢)
8-11		Pトレンチ	17-4		楽 殿2894-1 (中川)
9-1	50	Qトレンチ	17-5		# 2895-1 (西口)
9-2		Rトレンチ	17-6		出在家3237-3 (吉川)
9-3		Sトレンチ	17-7		# 3237-1 (里中)
9-4		Tトレンチ	17-8		楽 殿2894-1 (西村)
9-5		Uトレンチ	17-9		東海造機
9-6		Vトレンチ	18	53	6AEL-E・I (下園)
9-7		Wトレンチ	19		6AEN-M (御館)
9-8		Xトレンチ	20		6AEO-I・J (柳原)
9-9		Yトレンチ	21-1		6AGN-B (鍛冶山、北山)
9-10		Zトレンチ	21-2		6AEI-D (西加座2711-2ほか、山路)
10		広域圏道路	21-3		6AFD-D (西前沖2649-1、大西)
11-1		西加座2661-1 (山中)	21-4		6AFH-F (西加座2678、2679-3、森下)
11-2		# 2681-1 (山名)	21-5		6AGD-K (東前沖、渡辺)
11-3		東前沖2483-2 (前田)	21-6		6ACA-T (古里3269-2、中西)
11-4		下 園2926-9 (吉木)	21-7		6AFE-F (東前沖2631-1、鈴木)
12-1	51	2 Aトレンチ	21-8		6AEG-A (楽殿2909-3、大西)
12-2		2 Bトレンチ	21-9		6AED-R (篠林3218-3、宇田)
12-3		2 Cトレンチ	22-1		6AGU
12-4		2 Dトレンチ	22-2		6AGU
13-1		東加座2436-7 (浜口)	22-3		6AGW
13-2	51	# 2436-4 (中村)	23	54	6AEL-B (下園)
13-3		古 里3283 (村上)	24		6AGF-D (西加座)
13-4		楽 殿2916~2917 (松井)	25-1		6ADP-K (牛薬3029-1、三重土地ホーム)
13-5		御 館2974-1 (川本)	25-2		6ACA-Y (古里3270、脇田)
13-6		中垣内375-1 (南)	25-3		6ADD-F (篠林3139-3、池田)
13-7	51	東 裏328 (小川)	25-4		6AER-H (牛薬3014、牛薬公民館)

次数	年度	調査地区	次数	年度	調査地区
25-5	54	6AGN-H (鍛冶山2392、丸山)	42-2	57	6AEK-A・B (楽殿)
25-6		6AFH-A (西加座2675-5、谷口)	43-1		6ADC-C (出在家3235-2、永田)
25-7		6AEK-V (下園2926-10、奥田)	43-2		6ADT-B (木葉山308-1、山本)
25-8		6AFC-D (西前沖2064-5、山本)	43-3		6ACF-T (南裏241-1、辻)
25-9		6ACN-C (広頭3387-1、北出)	43-4		6ADS-D (牛葉123-3、西山)
25-10		6AEV-A (鈴池339-1、永島)	43-5		6ADE-D (篠林3220-3、澄野)
25-11		6ACF-B (東裏364-1、沢)	43-6		6AGE (東前沖、町道側溝)
25-12		6AEE-Y (楽殿2892-3、山本)	43-7		6ABD-F (古里588-6、今西)
25-13		6AEJ-E (西加座2766-1、山内)	43-8		6ADQ-H (牛葉3025-2、大西)
26-1		6AFR (中西)	44		6AFL-A・B (鍛冶山2759-1、他)
26-2		6AEX~6ACQ (鈴池、木葉山、南裏)	45		6AEG-P・Q (楽殿2904-2、他)
26-3		6AEV・W・X (鈴池)	46		6AGN-C・D (鍛冶山2737-1、他)
26-4		6ACR (木葉山、南裏)	47		6ADJ-D・G他 (西加座・御館・宮ノ前他)
27		6ACG-S・T (東裏)	48-1	58	6AGM-M (広頭3385、齋宮小)
28		6AEO-D (柳原)	48-2		6ADP-Q (牛葉3033-1・2、吉田)
29		6AFI、6AFL、6AFK、6AFM、6AGJ	48-3		6ABL-M (中垣内434-6、西川)
30		55	6ABJ-M・X・W (中垣内)	48-4	6AGL-B (東前沖2480、倉田)
31-1			6ADO-M (内山3038-13、岩見)	48-5	6AGD~6AFE (東前沖、町道側溝)
31-2			6ACP-1 (南裏227-2、鈴木)	48-6	6AGC-A (西前沖3550-1、今西)
31-3			6ABD-A (古里588-4、北敷)	48-7	6ADT-H (木葉山307、森西)
31-4			6ADQ-T (牛葉3018-2、百五銀行)	48-8	6ACL-E・F・G (東裏334-15、他)
31-5			6ACC-G (塚山3338-3、水谷)	48-9	6AEV-J (鈴池341-1、乾)
31-6			6ABO-X (古里576-1、池田)	48-10	6AGT (牛葉、町道側溝)
31-7			6AGI-L (東加座2427-1、竹内)	48-11	6ADP-E (鍛冶山2351-1・2352-1、柳原)
31-8			6ACN-G (広頭3388-1・5・8・9、森)	48-12	6AFC-H (西前沖2604-8・9、清水)
31-9			6AGD-L (北野2487-1、中川)	48-13	6ACM-O (東裏、齋宮小)
31-10			6ADM-O (内山3043-3、齋宮駅)	48-14	6AET (牛葉、町道側溝)
31-11			6ADT-I (木葉山304-2、澄野)	49	6ADI-D・U・V・W・X (上園3083、他)
31-12			6ADT-J (木葉山304-7、宇田)	50	6ACH-H (東裏294、297、山本)
32		6ACE-D・E・F (塚山)	51	6AFF-D (西加座2663-1・4、2664、森下)	
33		6ADE-C・D他 (篠林)	52	6AGF-D (西加座2703、他)	
34		6ADE-F・G・H (西加座)	53-1	59	6ACM-P (東裏284、体育館)
35		6APE他 (西前沖)	53-2		6ACA-M (古里3280-2、中西)
36	56	6ABI-F (中垣内)	53-3		6ABE (古里573-2、永納)
37-1		6AFC-M (西前沖2064、日本経木)	53-4		6ACL-S (東裏271-1、田所)
37-2		6ADQ-R (牛葉3021-2、野田)	53-5		6ACR (木葉山97-5、田中)
37-3		6AFC-F (西前沖2604-6、神田)	53-6		6AGO (鍛冶山、町道側溝)
37-4		6AFC-M (西前沖2604、日本経木)	53-7		6ADD-U (篠林3147-3、野呂)
37-5		6AFC-G (西前沖2064-7、中村)	53-8		6AGE-O (東前沖2470-2、上田)
37-6		6ABD-A (古里588-2、北敷)	53-9		6ACS-O (木葉山95-2、浅尾)
37-7		6AEC-M (苧干2861-2、斎王公民館)	53-10		6ACA-R (古里3267-1、西川)
37-8		6ADR-P (木葉山128-8・13・14、富山)	53-11		6ADR-W (木葉山131-7、西村)
37-9		6AGK-E (東加座2355-1、竹内)	53-12		6ABL-K (中垣内464-2、沢)
37-10		6AED-O (楽殿3217-1、渡部)	53-13		6ADQ-L (牛葉3022、辻)
37-11		6ADN-O (内山3043-3、齋宮駅)	53-14		6ACM-O (東裏287-3、体育館)
37-12		6AFH-J (西加座2681-1・3・4、渋谷)	53-15		6AFK-C・D (西加座2721-1、鈴木)
37-13		6AGK-F (西加座2385-3、2386-3、竹内)	54		6AFE-N (西前沖2630、他)
38		6ACD-S (塚山)	55		6AEN-P (柳原、御館2785-1、他)
39		6ABD-R・S・T (古里)	56		6ACH-S (東裏289-1、他)
40		6AGH-L・M (東加座)	57		6AGF-H・I (東加座2441、他)
41		6AGJ-J他 (齋宮地内)	58-1	60	6AFK-C・D (西加座2721-1、鈴木)
42-1	57	6AEI-D・F (楽殿)	58-2		6AFH-N (西加座2681-1、三村)

次数	年度	調 査 地 区	次数	年度	調 査 地 区
58-3	60	6ACM-N (東裏3385-2、齋宮小)	74-1	62	6ABF (古里523、他)
58-4		6ABL-A (中垣内4731-1、小家)	74-2		6ABF (古里522、他)
58-5		6ADQ-Q (牛養、町道側溝)	74-3		6ABE・F (古里524、他)
58-6		6ADR-V (木葉山131-3、西山)	74-4		6ABE (古里548-1、他)
58-7		6AGS-G (中西611、山路)	74-5		6ABE (古里543、他)
58-8		6ABM-A (中垣内430-3他、近鉄)	75		6AGF-C (西加座2702、他)
59		6ACJ-I (広頭3379-1、他)	76-1	63	6ADB-A~D (町道塚山線拡幅)
60		6AGJ-B・D・G (東加座2450-1、他)	76-2		6ADE-F・G (篠林3158、長谷川)
61		6AFF-H・I・D (西加座2663-1、他)	76-3		6ABE (古里554、明和町)
62		6AGI-J・K (東加座2425、他)	76-4		6ACK (東裏354-13、山際)
63		6AFG-M・N (西加座2659-1、他)	76-5		6AEE-W (楽殿577、岡田)
64-1	61	6ACO-H (牛養3395-1、トーカー)	76-6		6ACB-A (塚山3276-1、今西)
64-2		6AGL-F (東加座2435-1、大和谷)	76-7		6ACM-M (広頭3385-2、齋宮小)
64-3		6ADD-A (篠林3136-1、山路)	76-8		6AFM-G (鍛冶山2736-3、近鉄)
64-4		6AGR-N (笹川12340、丸山)	76-9		6ACQ (南裏144-1、田所)
64-5		6ACM-R・Q・P (東裏3385-2、齋宮小)	76-10		6ABD-U (古里579、池田建設)
64-6		6ACK (東裏361-2、竹川自治会)	76-11		6ABE (古里554、明和町)
64-7		6AGI-G (東加座2435-2、大和谷)	76-12		6AEE (楽殿、町道下水管)
64-8		6AGR-J (笹川12341-6、山下)	76-13		6ADD-K (篠林3143、中西)
64-9		6ADQ-M (牛養、町道側溝)	76-14		6AEE-S (楽殿2878-3、山路)
64-10		6ACF-A (東裏365-1、樋口)	76-15		6ABF~6ABH (中垣内、県道拡幅)
64-11		6ACM-O (東裏3385-2、齋宮小)	76-16		6AEK-B (下園2936-2、明和町)
64-12		6ADE-B (篠林3162-3、江崎)	76-17		6AEV-A (鈴池339-5、水島)
65-1		6ACC-M (塚山3331-1)	77		6AGJ-D (東加座2453、他)
65-2		6AEG-S (楽殿2908-2、他)	78		6ADL (宮ノ前3054、他)
65-3		6AEI-L・M (楽殿2917-4、他)	79		6AGG-A・B (東加座2440、他)
66		6AGG-C (東加座2437-1、他)	80		6AFG-F~I (西加座2696、他)
67		6ABF (古里523、他)	81-1	H 1	6AEC~F (町道塚山線拡幅)
68		6ABF (古里502、他)	81-2		6ABJ、6ABK (古里、県道拡幅)
69		6AGM-E~H (東加座2373、他)	81-3		6ADS-M (木葉山137、中川)
70-1	62	6ACC-X (塚山3325-1、江崎)	81-4		6AED-L (楽殿2881-2、山本)
70-2		6AEE-W (楽殿2875-2、岡田)	81-5		6AFQ-C (中西597-2、木戸口)
70-3		6ADR-I (木葉山129-5、大西)	81-6		6ADD-F (篠林313、池田)
70-4		6ACN-A・B・E・L (広頭3389-8、林)	81-7		6ABL-U (中垣内430-7、川本)
70-5		6AEW-A (鈴池333-1、八田)	81-8		6ABJ (古里、明和町)
70-6		6ABL-S (中垣内430-6、奥山)	81-9		6ACF (中垣内、三重県)
70-7		6AEE-T (楽殿577、浅尾)	81-10		6ADR-V (木葉山297、明和町)
70-8		6AEU・6AEX-A (牛養、鈴池、三重県)	81-11		6ACM-N (広頭3385-2、明和町)
70-9		6AEP-C・D (御館、榊原、近鉄)	81-12		6AED-A (篠林3225、中川)
70-10		6AFD-B・D (西前沖2649-4、大西)	81-13		6ACB (塚山3276-19他、明和町)
70-11		6AGO-H (鍛冶山2363-2、川合)	81-14		6AED-F (楽殿2844-2、澄野)
70-12		6ADD-F・G (篠林3158、長谷川)	81-15		6AED-U (楽殿2885-2、西山)
70-13		6AEC-N・G (菊干、佐藤)	81-16		6AG (北野3655-1他)
70-14		6ABL-R (中垣内459、北岡)	82-1		6ADI-F~J (上園3095他)
70-15		6AFD-A (西前沖2644-1、山本)	82-2		6ADI-K・L (上園3100他)
70-16		6ACB-A他 (町道塚山線拡幅)	83		6AFJ-C~F (西加座2770-3他)
71		6ABE (古里501、他)	84-1		6AFJ-G (西加座2764-3)
72-1		6ABE (古里500、他)	84-2		6AFH-G・H (西加座2679-1他)
72-2		6ABF (古里523、他)	85-1	2	6ABD~6ACD (古里、三重県)
72-3		6ABF (古里551-2、他)	85-2		6ACA-P (古里3279、松本)
72-4		6ABF (古里528-1、他)	85-3		6ACJ-B・D (東裏、明和町)
73		6AFF-B・C・E・G (西加座2663-5、他)	85-4		6ABE (竹川1573-1、永納)

次数	年度	調査地区	次数	年度	調査地区
85-5	2	6AED-U (楽殿2885-2、西山)	112	7	6ACB-B (塚山3276-15、他)
85-6		6AFH-B (西加座、明和町)	113-1	8	6ACI (広頭地内)
85-7		6ACB-C (塚山3276-3他、加藤)	113-2		6ACI (広頭地内)
85-8		6ABH-N (中垣内427-1、小林)	114		6AEQ-E・F (柳原地内)
86		6AFH-F・G・H (西加座2679-1、他)	115-1		6ADK-DL (上園・宮ノ前地内)
87		6ACE-N (塚山3356、他)	115-2	8	6ADK (上園地内)
88		6AGN-C・D (鍛冶山2411-1、他)	116-1		6ADG (篠林地内、他)
89-1	3	6ADM-O (内山3043-5、近鉄斎宮駅)	116-2		6ADM-A (内山)
89-2		6AGI-M (東加座2432-2他、北村)	116-3		6ADI-Q (宮ノ前地内)
89-3		6ADM-N・O (内山3060-4、近鉄斎宮駅)	116-4		6ADI-M・N (上園地内)
90		6AFH-A・B (西加座2680、他)	116-5		6ADI (上園・篠林地内)
91		6ABH-F (中垣内393、他)	116-6		6ADH (篠林地内)
92		6AGN-A (鍛冶山2734-3)	117-1		6AEF (楽殿2984-4)
93		6ADM (内山3045-12、他)	117-2		6ADF-A・B (篠山3155-1、他)
94		6AEM (御館2942)	117-3		6ABJ (中垣内地内)
95	4	6ADN (内山3046-17、他)	117-4		6ADP (牛養地内)
96-1		6AGM (東加座2374、丸山)	117-5		6AFC-M (北野3553-1、他)
96-2		6ADO (内山3068-3他、明和町)	117-6		6ACM-B (東裏266-6)
96-3		6ACA-D (古里3260、清水)	118	9	6ADN (内山地内)
96-4		6AFN (中西2749-1、本山)	119		6AFM-E・G (鍛冶山西地内)
96-5		6ADR-T (木葉山28-3、加藤)	120		6AFI-C・E、6AFG-R (西加座地内)
96-6		6ADD-D (篠山3138-1、藤井)	121		6AJB他 (宮ノ前地区、他)
97		6AEM (中垣内482、他)	122		6AFN (鍛冶山地内)
98		6AFM-C・E (鍛冶山2475、他)	123-1		6AFQ-A (中西地内)
99	5	6ADN (内山3046-11、他)	123-2		6AFN他 (中西・笹川地内)
100		6ABI-T (中垣内423)	123-3		6ADP-F~H・L (牛養地内)
101		6ADG (篠山3194)	123-4		6ADQ-A~C (牛養地内)
102-1		6ADS (木葉山119-5、澄野)	123-5		6AEE (刈干地内)
102-2		6AED-J (楽殿2882-5、杉本)	123-6		6ACC-I (塚山地内)
102-3		6AAQ (花園663-1、中川)	124	10	6AFM-B・E・G (鍛冶山地内)
102-4		6ACF-A (東裏365-1、樋口)	125-1		6ACC-I (塚山3337-1他)
102-5		6ABJ-D (中垣内493-6、川口)	125-2		6AES他 (斎宮・竹川地内)
102-6		6AG (鍛冶山地内、明和町)	125-3		6ADD-R (篠林地内)
102-7		6ACG-E (東裏318-1、川本)	125-4		6ACN (広頭)
102-8		6AE (楽殿地内、明和町)	126		6AGU (中西)
103		6AEQ-A (柳原2779-3)	127	11	6ADK-H,I (上園3113、他)
104		6AGT (笛川1048-1、他)	128-1		6ADP (鍛冶山2737-1)
105	6	6AFN (鍛冶山2758-1、他)	128-2		6ACA-W (古里3270-4)
106-1		6AEW-J (鈴池338-1、森西)	128-3		6AEW-A・C・M (鈴池地内、明和町)
106-2		6AEE-W (楽殿2891-3、向井)	128-4		6ACK (東裏地内、明和町)
106-3		6AFL他 (鍛冶山地内、明和町)	128-5		6AEP (御館2975-1他、明和町)
106-4		6AEC-L (刈干2861、坂本)	128-6		6ADN (内山地内、明和町)
106-5		6AGO (鍛冶山2362、青山)	128-7		6AAQ (花園地内、明和町)
106-6		6ACC-B (塚山3340-4、田畑)	128-8		6AEC-M (刈干地内、斎王公民館)
107		6ABI-O (中垣内414-1、他)	129		6AEU (御館2969-1他)
108		6AEQ-C (柳原2779-2、他)			
109	7	6AFL-D (鍛冶山2763-1、他)			
110-1		6ACM-J (東裏262-3、斎宮土地改良区)			
110-2		6AGR-O (笛川2345-3、竹内)			
111-1		6ADM (内山地内)			
111-2		6ADK (上園地内)			
111-3		6ADL他 (宮ノ前地内)			



第10図 斎宮跡地区表示



第11图 前宮跡方格地割区画名称

発掘調査報告抄録

ふりがな	しせきさいくうあと		へいせい11ねんどはつくつちようさがいほう				
書名	史跡斎宮跡		平成11年度発掘調査概報				
副書名							
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	駒田 利治・上村 安生・大川 勝宏・西村 美幸						
編集機関	斎宮歴史博物館						
所在地	〒515-0321三重県多気郡明和町竹川503番地 TEL0596-52-3800						
発行年月日	2001年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 ° ' "	東緯 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
斎宮跡	多気郡明和町斎宮他	24442 210	34 31 35 }	136 36 16 }	19990510 }	1,330	計画調査
第127次調査	斎宮宇上園		34 32 30	136 37 37	19991026 }		
第129次調査	斎宮宇御館				19990802 }	166	"
					19990820		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
斎宮跡	宮殿						
第127次調査		奈良時代後期～鎌倉時代	掘立柱建物、井戸 土坑、溝、道路	土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器	奈良時代の古道		
第129次調査				土師器、須恵器、灰釉陶器	近代の攪乱		



第127次調査区全景（上空から）



調査区全景（西から）



SD5254, 8166, 5256, 5260 (東から)



SD8128, 8129, 8130, 8132 (西から)



SB7715 (西から)



SK8134 土器出土状況



調査区全景（南から）



北調査区全景（東から）



2



4



5



8



9



10



13



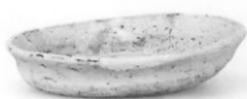
15



22



23



28



29



30



31



32



33



38



36



45



52



57



60



19

史跡 齋宮跡

平成 11 年度

発掘調査概報

平成 13 年 3 月 31 日

編集発行 齋宮歴史博物館

印刷 光出版印刷株式会社
